白石市文化財調査報告書 第３１集

市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ

平成２０年3月

白石市教育委員会

例　言

1．本書は、白石市教育委員会が平成18年度及び19年度に実施した市内遺跡発掘調査事業にかかる調査結果報告である。なお本事業は市単独経費及び一部事業主負担で実施した。市経費は2,305千円（18年度、過去の調査資料整理を含む）、1,779千円（19年度同）である。

2．土層の色調表記については、『新版標準土色帖』（小山・竹原、1996）を用いた。地図は白石市土地情報提供GISを用いた。

3．検出遺構の略号は以下の通りである。

ＳＩ：竪穴住居跡　　ＳＤ：溝跡　　ＳＫ：土壙　　Ｐ：柱穴

4．本事業の調査の実施は宮城県白石市教育委員会社会教育課 津田優佳・日下和寿（平成18年度）、日下和寿・櫻井和人（19年度）が担当した。報告書本文執筆は日下が担当した。ただし17頁～20頁に関しては佐藤敏幸氏が執筆作成した。資料整理は家納久美、岡部とき子、後藤美砂緒、引地ゆかり、平間智恵、濱中一道、服部友里子、佐藤里栄があたった。

5．発掘調査の実施、報告書作成等にあたっては、宮城県教育庁文化財保護課をはじめとする次の機関・方々から多大なご協力をいただいた（敬称略）。

土師器、須恵器　菅原祥夫（宮城県考古学会々員）、石本弘（白石市文化財保護委員）
佐藤敏幸（宮城県考古学会々員）
中世陶器　千葉孝弥（多賀城市埋蔵文化財調査センター）
近世陶磁器　佐藤　洋（仙台市教育委員会）
発掘調査　石本弘、山崎夫妻、上野雄規夫妻
石器　村田弘之（東北大学院文学研究科）、傳田隆（東北大学文学部）
宮城県大河原土木事務所、高橋建設株式会社、（株）遊佐組、各地権者、事業主

6．調査全般に指導いただいた故中橋彰吾白石市文化財保護委員長に哀悼の意を表する。

7．本事業の記録及び出土品は、白石市教育委員会社会教育課が保管しており、求めに応じて公開している。

第１章　平成１８年度及び１９年度における埋蔵文化財調査概要

平成18年度及び19年度における市内の確認調査及び工事立会等箇所は第１表にまとめた。この２ヶ年度では発掘調査（事前調査）２件、確認調査18件、工事立会60件となっている。

農地転用、地下の埋蔵文化財に影響がある各種事業に関しては、事前に確認調査及び発掘調査を実施している。掘削深度が浅い等の理由で埋蔵文化財に影響が少ない、過去の工事によって埋蔵文化財が既に破壊された箇所と考えられた箇所については工事立会としている。また下水道工事では、掘削範囲が狭小であることから、原則として工事立会としている。

平成18年度は確認調査を６件実施したものの、うち５件は遺構、遺物とも全く確認されなかった。事前調査は１件であった。15番の前山遺跡の工事立会では、土師器２片が出土した。

平成19年度は確認調査を10件実施した。うち２件では、遺構、遺物とも発見されなかった。遺構が確認された箇所は全て、遺構面に掘削が及ばない工事を実施することになっており、確認調査で終了となっている。41番の白石城跡では、５カ所のトレンチは旧法務局時代の基礎工事によって大きく撹乱された箇所であることが判明した。45番の本郷遺跡では、２カ所のトレンチを設定したが、上層部分に撹乱があり、下層からも遺構、遺物は確認されなかった。49番の田中遺跡ではトレンチを１箇所設け、良好な土層を確認したが、遺構は確認されず、基本層位第４層から土師器、第１層から剥片、文久通宝が出土したのみであった。58番の祢宜内遺跡では、３カ所のトレンチを設定し、遺構は確認されなかった。表土から近世陶磁器、土師器が発見されたものの、砂礫層が堆積している状況が判明した。肥前産の筒茶碗、雷文（18世紀？）、産地不明の染付瓶（近代？）、肥前産染付瓶類、近世、肥前染付椀（18世紀以降）と推定されるものが出土した。74番の大畑遺跡では、４ヶ所のトレンチを設定し、確認調査を実施したが、Ｔ４以外では砂礫層が堆積していた。Ｔ４では土師器片２点が出土した。42番の観音崎遺跡では工事立会で、盛土中から土師器２点が出土した。59番の湯ノ口遺跡では、良好な土層が確認できたものの、土師器片が若干出土したのみであった。72番の大畑遺跡では、掘削された土から在地産中世陶器（鎌倉期）、肥前産染付筒茶碗（18世紀）、同染付椀、蛸唐草（18世紀代）、同皿（江戸時代）、同椀（江戸時代）、大堀相馬、鉄絵土瓶？（19世紀前半）、青花？椀？（17世紀前半？）、土師器、須恵器が出土した。77番の大畑遺跡では表土から、小野相馬産椀？淡青色釉（18世紀代）、瀬戸？鉄釉椀か鉢、岸窯？鉄釉摺鉢（17世紀？）が出土した。78番の本館跡では、現地確認時に縄文時代前期土器が採取された。

遺構、遺物が確認された調査については次章で報告する。また坂端道路改良工事に伴う発掘調査（和尚堂遺跡、宮下遺跡、白石条里制跡推定地）は別途報告予定である。

第１表　平成 18 年度及び 19 年度　埋蔵文化財調査一覧

No.	遺跡名	遺跡番号	対応内容	所在地	調査要因	調査期間
1	椚下遺跡	02182	工事立会	白川犬卒都婆 14 の 1	店輔建設	平成 18 年 4 月 10 日
2	中屋敷陣屋跡	02248	工事立会	大平森合字北中屋敷	ガスパイプライン敷設工事	平成 18 年 4 月 24 日、5 月 11 日
3	大畑遺跡	02262	工事立会	字東大畑 51 の 1	個人住宅建設	平成 18 年 5 月 1 日
4	大畑遺跡	02262	工事立会	大畑二番 46 の 1	個人住宅建設	平成 18 年 5 月 19 日、5 月 29 日
5	大仏上遺跡	02024	工事立会	越河字台	ガスパイプライン敷設工事	平成 18 年 5 月 6 日～6 月 15 日
6	三部山遺跡	02325	工事立会	福岡長袋字三部山 30 の 1	個人住宅建設	平成 18 年 6 月 2 日、6 月 13 日
7	本館跡	02208	工事立会	白川津田字川畑 164 の 3	個人住宅建設	平成 18 年 7 月 4 日
8	新館跡	02165	工事立会	南町二丁目 24 の 15	個人住宅建設	平成 18 年 7 月 7 日
9	谷津川遺跡	02133	工事立会	旭町三丁目 7 の 12	個人住宅建設	平成 18 年 7 月 3 日、7 月 20 日
10	青木遺跡	02306	工事立会	福岡深谷字青木上 26 の 1	個人住宅建設	平成 18 年 7 月 20 日
11	滝ノ観音裏遺跡	02250	確認調査	福岡蔵本字滝野原 168－1	無線局建設	平成 18 年 8 月 22 日
12	観音崎遺跡	02322	工事立会	郡山字観音崎 163－1	個人住宅建設	平成 18 年 8 月 24 日
13	大畑遺跡	02262	工事立会	字東大畑 130	個人住宅建設	平成 18 年 8 月 22 日～28 日
14	本館跡	02208	工事立会	白川津田字山上	市道拡幅工事	平成 18 年 8 月 29 日
15	前山遺跡	02115	工事立会	城南二丁目 1 の 8、1 の 9	個人住宅建設	平成 18 年 9 月 1 日
16	佐野道遺跡	02396	工事立会	大鷹沢大町字佐野道 84	個人住宅建設	平成 18 年 9 月 4 日
17	北無双作遺跡	02009	確認調査	北無双作 33 の 11	個人住宅建設	平成 18 年 8 月 22 日、9 月 15 日
18	白石条里制跡推定地	02400	工事立会	旭町五丁目 3 の 3	個人住宅建設	平成 18 年 9 月 19 日
19	鶴巻田遺跡、微妙館跡	02016 02226	工事立会	越河五賀字鶴巻、妙見	下水管埋設	平成 18 年 9 月 20 日
20	御所内遺跡	02320	工事立会	福岡深谷字御所内	下水管埋設	平成 18 年 9 月 28 日
21	弥陀内遺跡	02263	確認調査	郡山字平成 54	個人住宅建設	平成 18 年 10 月 2 日
22	峠沢遺跡	02022	工事立会	越河五賀字峠沢	下水管埋設	平成 18 年 10 月 19 日
23	新館跡	02165	工事立会	南町二丁目 24 の 16	貸家建築	平成 18 年 10 月 20 日
24	弥陀内遺跡	02263	確認調査	郡山字平成 55 の一部	アパート建設	平成 18 年 9 月 25 日、10 月 20 日
25	永坂前遺跡	02040	工事立会	福岡長袋字永坂	下水管埋設	平成 18 年 9 月 25 日、10 月 25 日
26	青木遺跡	02306	工事立会	福岡深谷字青木	下水管埋設	平成 18 年 12 月 20 日 平成 19 年　1 月 10 日
27	白石条里制跡推定地	02400	工事立会	旭町五丁目 4 の 8	個人住宅建設	平成 18 年 11 月 20 日、29 日
28	馬場台遺跡	02021	工事立会	越河五賀字馬場、宮下	下水管埋設	平成 18 年 10 月 30 日、11 月 30 日
29	山道遺跡	02369	工事立会	越河字平字山道	下水管埋設	平成 18 年 12 月　4 日 平成 19 年　1 月 15 日
30	深山館跡	02154	工事立会	越河字深山腰	下水管埋設	平成 19 年 1 月 10 日
31	一本木遺跡	02101	工事立会	福岡深谷字一本木	個人住宅建設	平成 19 年 1 月 18 日
32	竹ノ中遺跡	02434	工事立会	大鷹沢三沢字五丁目 154 の 4	個人住宅建設	平成 19 年 2 月 13 日
33	鷹巣古墳群 30 号墳	02005	工事立会	郡山字虎子沢山 2 の 5、2 の 2	確認調査埋め戻し	平成 19 年 2 月 7 日、2 月 15 日
34	白石条里制跡推定地	02400	工事立会	旭町三丁目 1 の 2 の一部	アパート建設	平成 19 年 3 月 6 日
35	弥陀内遺跡	02263	工事立会	郡山字平成	下水管埋設	平成 19 年 1 月 24 日～3 月 14 日
36	古御所遺跡	02113	確認調査	大平森合字坂下前 24 の 4	確認調査	平成 19 年 3 月 13 日
37	下ノ神明遺跡 田上遺跡 三部山遺跡	02039 02043 02325	工事立会	福岡長袋字永坂	下水管埋設	平成 19 年 2 月 5 日～3 月 28 日
38	大畑遺跡	02262	工事立会	堂場前 146 の 5	個人住宅建設	平成 19 年 3 月 30 日
39	大畑遺跡	02262	発掘調査	堂場前 146 の 5	個人住宅建設	平成 19 年 4 月 12 日
40	大畑遺跡	02262	工事立会	字東大畑 20 の 2	個人住宅建設	平成 19 年 4 月 13 日
41	白石城跡	02197	確認調査	南町一丁目 360 の 1	病院建設	平成 19 年 4 月 17 日
42	観音崎遺跡	02322	工事立会	郡山字観音崎 1	個人住宅建設	平成 19 年 4 月 24 日
43	打越前遺跡 愛宕山遺跡	02026 02370	工事立会	越河平字打越前、愛宕山	用排水路工事	平成 19 年 5 月 18 日
44	弥陀内遺跡	02263	確認調査	十王堂前 71 の 1	貸家建築	平成 19 年 5 月 23 日
45	本郷遺跡	02121	確認調査	沢目 26 の 5	個人住宅建設	平成 19 年 6 月 4 日～8 日
46	下館遺跡	02307	確認調査	福岡深谷字下舘 111 の 4	個人住宅建設	平成 19 年 6 月 4 日、5 日
47	前原北遺跡	02095	工事立会	福岡深谷字前原	下水管埋設	平成 19 年 6 月 25 日
48	大畑遺跡	02262	確認調査	字東大畑 59、60	住宅地造成	平成 19 年 6 月 25 日
49	田中遺跡	02135	確認調査	大平中目字大柳前 1	個人住宅建設	平成 19 年 6 月 27 日
50	鷹巣古墳群 28 号墳	02005	工事立会	鷹巣字堂ノ入山 2 の 14	確認調査埋め戻し	平成 19 年 6 月 27 日

No.	遺跡名	遺跡番号	対応内容	所在地	調査要因	調査期間
51	前山遺跡	02115	工事立会	城南二丁目４の10	個人住宅建設	平成19年6月27日
52	白石条里制跡推定地	02400	工事立会	旭町三丁目１の６	個人住宅建設	平成19年6月27日
53	白石条里制跡推定地	02400	工事立会	旭町四丁目５の５	個人住宅建設	平成19年7月9日
54	松田遺跡	02094	工事立会	福岡深谷字松田	下水管埋設	平成19年7月17日
55	白石条里制跡推定地	02400	工事立会	旭町五丁目１の１	駐車場建設	平成19年7月24日、25日
56	白石条里制跡推定地	02400	工事立会	旭町三丁目８の３、８の４	アパート建設	平成19年8月2日
57	新館跡	02165	工事立会	南町二丁目24の17	個人住宅建設	平成19年9月3日
58	祢宜内遺跡	02430	確認調査	祢宜内42の１	個人住宅建設	平成19年9月13日
59	湯ノ口遺跡	02097	工事立会	福岡深谷字湯ノ口	下水管埋設	平成19年10月9日～11日
60	八幡坂西陣屋跡 八幡坂西遺跡	02249 02345	工事立会	八幡町748の１	貸家建築	平成19年10月24日
61	鹿ノ館跡	02294	工事立会	福岡長袋字鹿野屋敷	下水管埋設	平成19年11月6日、12日
62	大畑遺跡	02400	確認調査	字東大畑９の１	アパート建設	平成19年11月12日
63	植田前遺跡	02071	工事立会	福岡深谷字植田前	下水管埋設	平成19年11月12日
64	大畑遺跡	02400	工事立会	字東大畑59の２	個人住宅建設	平成19年11月21日
65	三部山遺跡	02325	工事立会	福岡長袋字三部山	下水管埋設	平成19年12月4日～ 平成20年　1月9日
66	大畑遺跡	02262	工事立会	字東大畑59の１	個人住宅建設	平成19年12月18日
67	大畑遺跡	02400	確認調査	字東大畑108の１	宅地造成	平成19年12月20日～21日、平成20年2月8日、12日
68	飯詰遺跡	02111	工事立会	斎川字中斎川	新幹線橋脚補強工事	平成19年12月26日～ 平成20年　2月　1日
69	六角遺跡	02100	工事立会	福岡深谷字六角	下水管埋設	平成20年1月24日
70	松田遺跡	02094	工事立会	福岡深谷字松田	下水管埋設	平成20年1月28日
71	大畑遺跡	02262	確認調査	字不澄ヶ池100－1、103－3	個人住宅建て替え	平成20年1月31日
72	大畑遺跡	02262	工事立会	字東大畑９－１	アパート建設	平成20年1月31日～2月9日
73	赤沼遺跡	02227	工事立会	福岡深谷字南上	下水管埋設	平成20年2月4日
74	大畑遺跡	02262	確認調査	字東大畑37	宅地造成	平成20年2月19日
75	本館跡	02208	工事立会	白川津田字川畑	斜面掘削、土取り	平成20年1月25日～3月27日
76	天神館跡	02149	工事立会	白川津田字寺下51－1,55	個人住宅建設	平成20年3月18日
77	大畑遺跡	02262	確認調査	字不澄ヶ池94	駐車場建設	平成20年3月25日
78	大畑遺跡	02262	工事立会	郡山字荒屋敷50－2	住宅建築	平成20年3月31日
79	白石条里制跡推定地、宮下遺跡	02400 02128	確認調査	大鷹沢三沢字坂端	坂端道路改良工事	平成19年6月14日～20日
80	和尚堂遺跡	02401	発掘調査	大鷹沢三沢字坂端	坂端道路改良工事	平成19年9月26日～12月27日

第２章　平成１８年度及び１９年度における発掘調査成果

１　大 畑 遺 跡

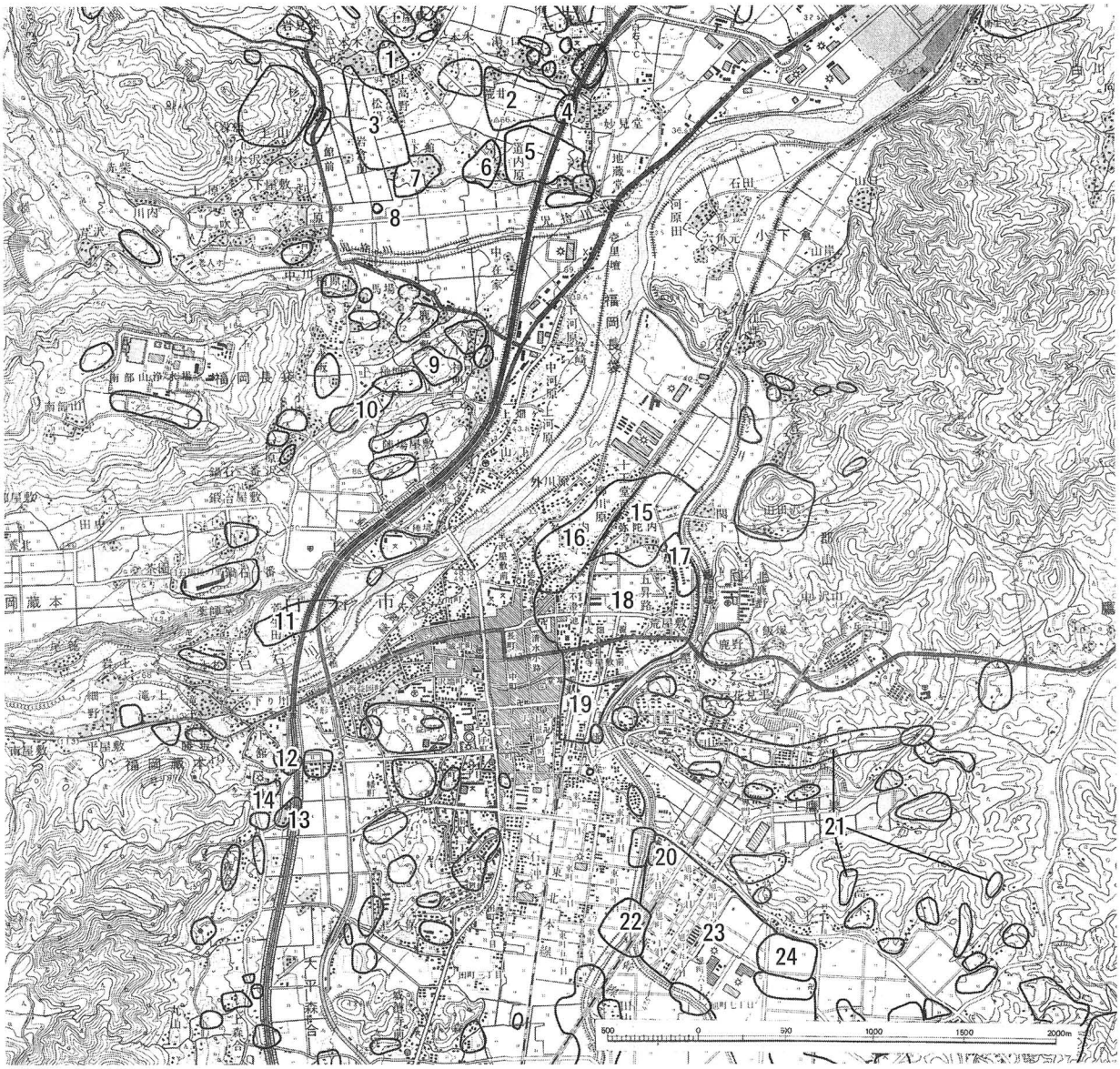
地点①

県遺跡番号　02262　　遺跡略号　ＯＨ

所在地　白石市字堂場前145番地５

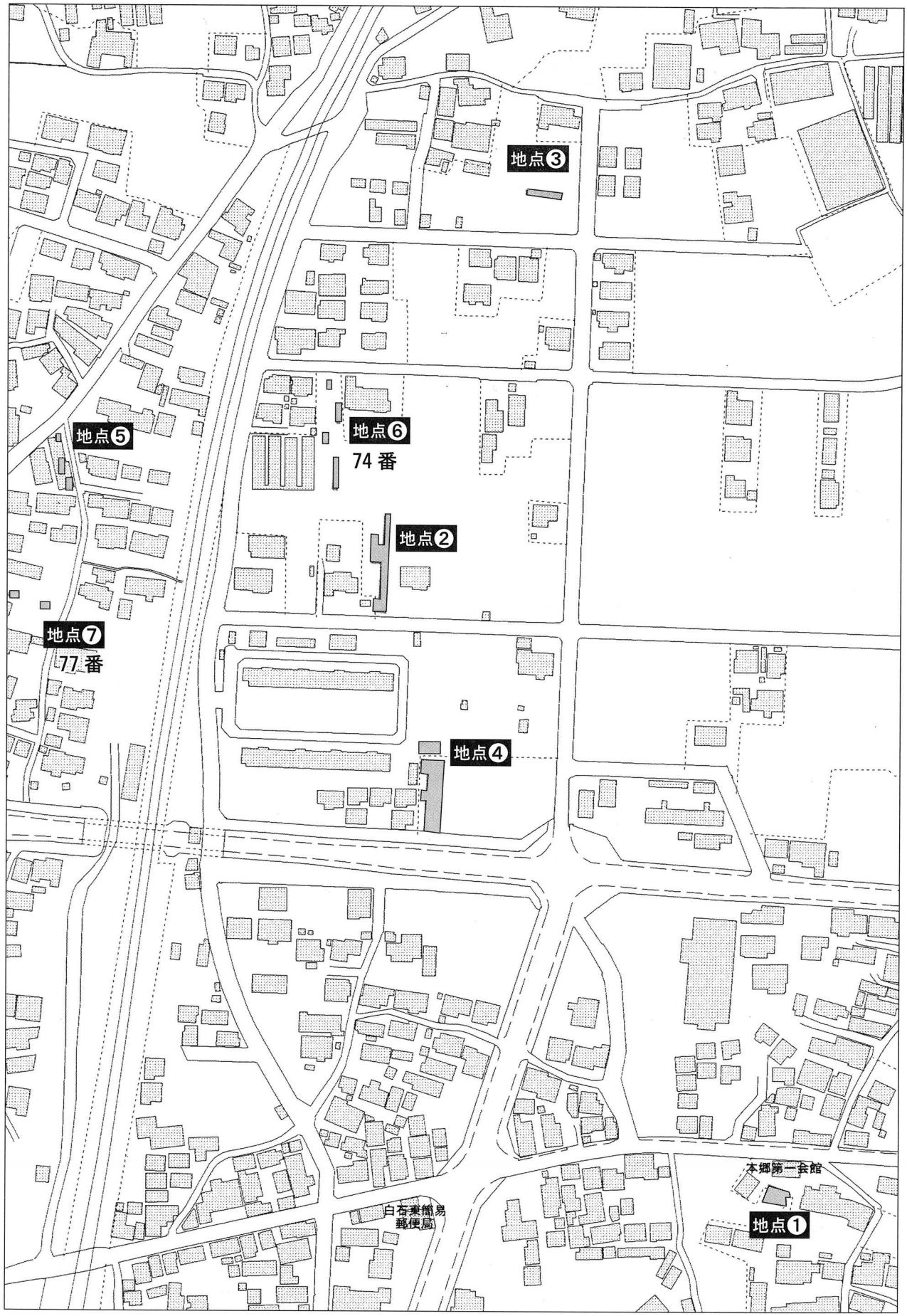
調査要因　個人住宅地調査　調査期日　平成19年２月５日～３月29日　　調査面積　115㎡

遺跡はＪＲ東日本東北本線白石駅から北東約0.5㎞の住宅地に位置している。当該地の現況は畑地になっている。今回、住宅建築における基礎工事で土壌改良が実施されるため、埋蔵文化財の発掘調査を実施した。なお、調査区南東部は自家用井戸が設置されているため、発掘調査対象区から除外した。基本層位は表土、第２層にぶい黄褐色シルト、第３層褐灰色シルト、第４層に

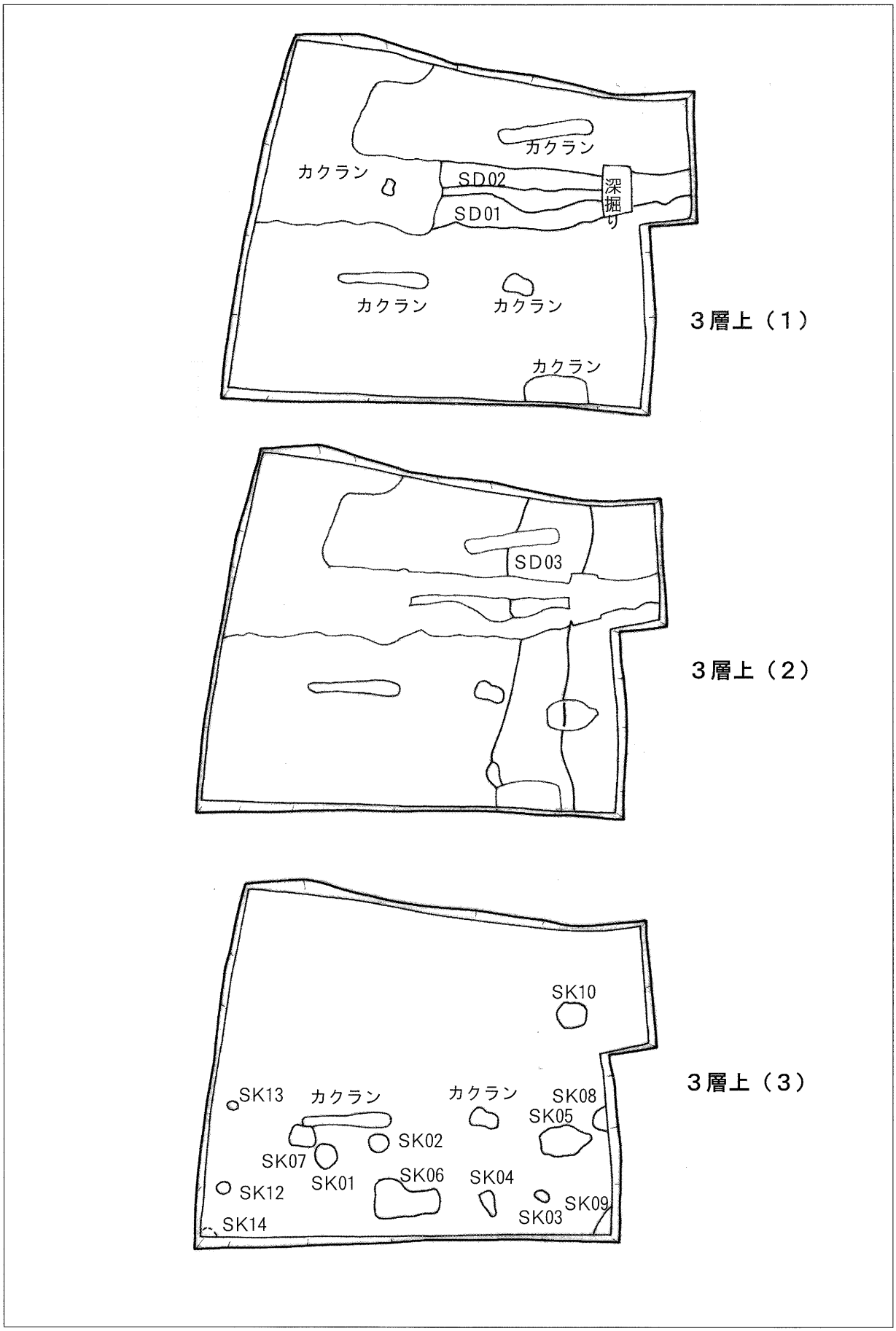


第１図　遺跡位置図（平成 19 年 9 月 20 日現在）

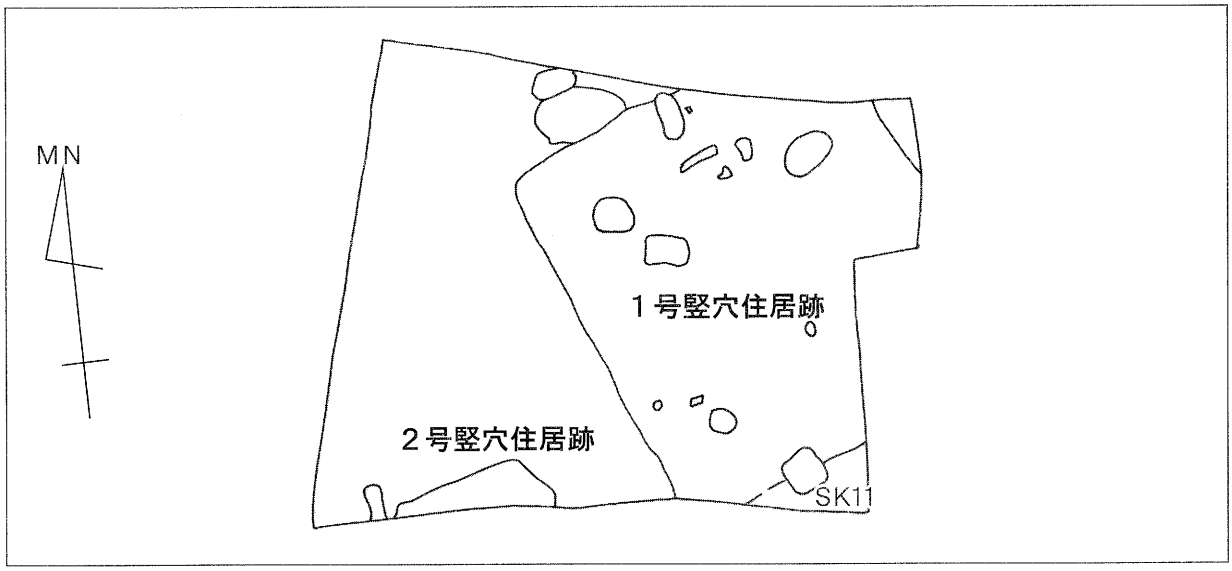
番号	遺　跡　名	種　　別	時　　代	番号	遺　跡　名	種　　別	時　　代
1	上高野遺跡	散布地・製鉄遺跡	縄文早～中・奈良・平安	13	中屋敷陣屋跡	陣屋	近世
2	荒井遺跡	散布地・製鉄遺跡	縄文前～晩・弥生・古代	14	月心院遺跡	散布地・寺院	古代・近世
3	三本木前遺跡	散布地	縄文前・後・晩・古代・中世	15	祢陀内遺跡	散布地	弥生～平安
4	御所内遺跡	集落	縄文早・中・後・平安	16	祢宜内遺跡	散布地	奈良・平安
5	青木遺跡	集落	縄文早・中・晩・弥生・平安	17	観音崎遺跡	集落	古墳後～平安
6	下館遺跡	散布地・城館・製鉄遺跡	縄文後・平安・中世	18	大畑遺跡	散布地・官衛	弥生～中世
7	道内原遺跡	散布地・製鉄遺跡	奈良・平安	19	本郷遺跡	散布地	古代
8	堂田廃寺跡	寺院	平安	20	梅田遺跡	集落	弥生・古墳
9	下ノ神明遺跡	散布地	縄文中・平安	21	鷹巣古墳群	前方後円墳・円墳	古墳・古代
10	田上遺跡	散布地	縄文前・中	22	谷津川遺跡	散布地	縄文～古代
11	菅生田遺跡	集落	縄文前～後・弥生	23	白石条里制跡推定地	水田跡	古代・中世
12	下館遺跡	散布地	古代	24	和尚堂遺跡	散布地	縄文後・古代



第２図　大畑遺跡調査区位置図（Ｓ＝１／２,５００）



第３図　地点①　遺構配置図(1)（S＝1／100）



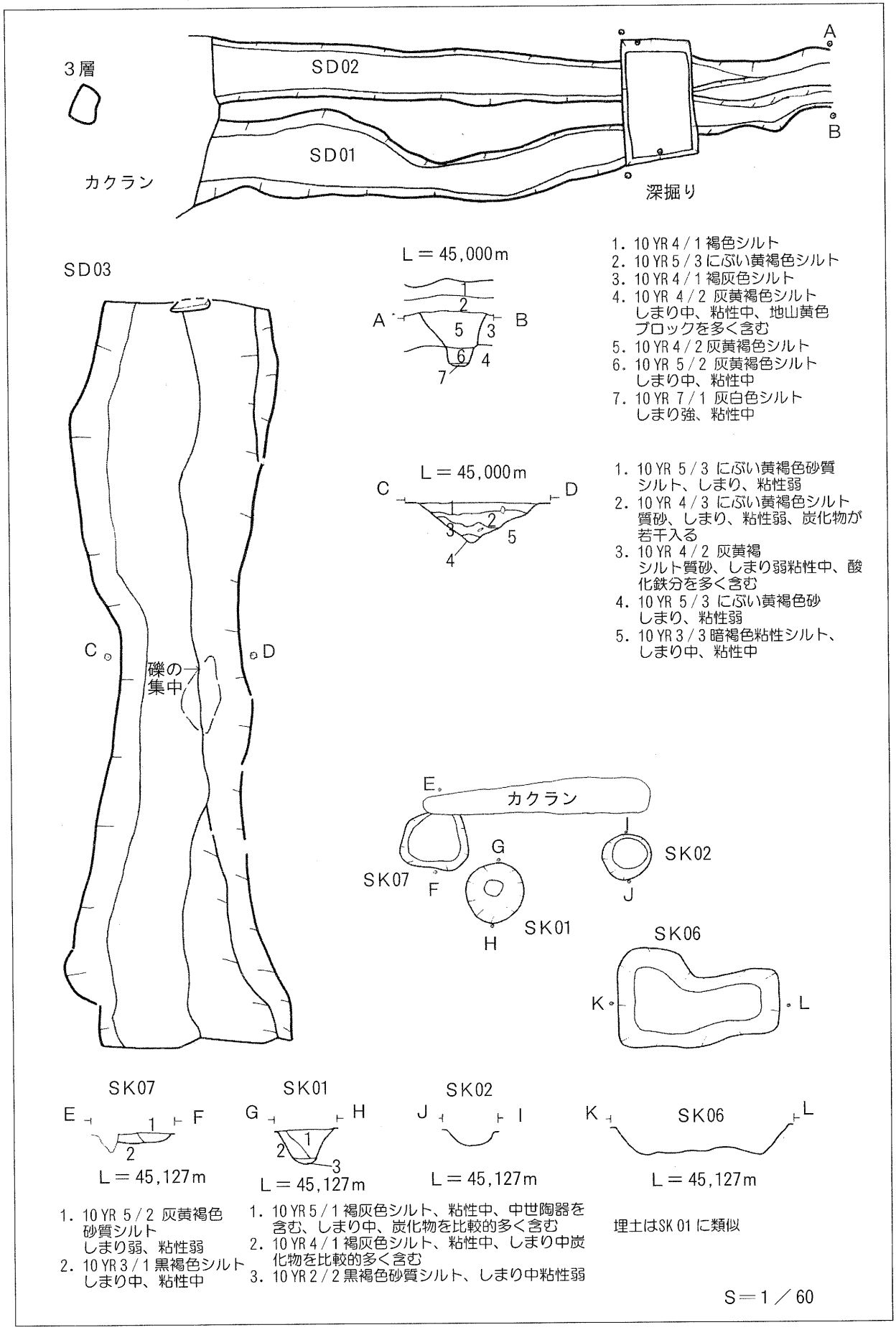
第４図　地点①　遺構配置図(2)（Ｓ＝１／100）

ぶい黄褐色粘土質シルトとなっている。遺構は３層上面で確認され、切り合い関係、埋土の特徴から４時期の変遷が確認された。なお表土、カクランからは、型押しの瓦質土器香炉、近世？、大堀相馬掻け分け椀、18 世紀、菊花角小皿、呉須塗りつぶし、19 世紀、洋食器、明治時代、海外産？、白磁の狐があった。

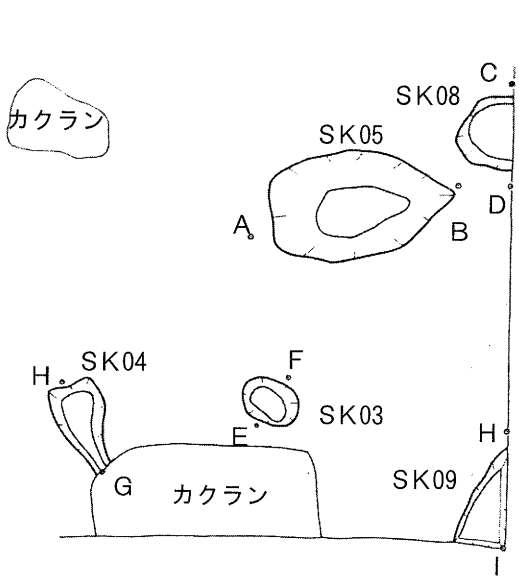
遺構、遺物は次のものが確認された。第３層上面では近世の溝、ＳＤ 01、ＳＤ 02 は東西方向で 6.9 ｍほど確認されたが、西側はカクラン、東側は調査区外であったため、全長は不明である。２つの溝は調査区の東寄りで重複するが、切り合い関係は明確にできなかった。ＳＤ 01 は幅 0.45 ～ 0.65 ｍ程、ＳＤ 02 は幅 0.35 ～ 1 ｍ程であった。深さは 0.6 ｍである。遺物は近世陶磁器（大堀相馬、灰釉徳利、18 世紀代）、瓦、寛永通宝銅銭、土師質の土器がある。

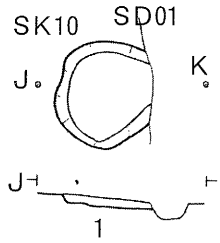
13 世紀後半以降、近世以前の溝１条、ＳＤ 03 は長さ 8.4 ｍ以上で、幅 1.5 ～ 2.3 ｍ、深さ 0.45 ｍで南北方向を向いている。堆積土に礫が多く含まれる箇所がある。出土遺物には中世陶器 13 点、回転糸切り底の土師器、須恵器がある。

13 世紀後半の土坑 13 基が確認された。ＳＫ 01 は長軸 0.6 ｍ、短軸 0.6 ｍで深さは 0.38 ｍで円形を呈し、土師器が出土した。ＳＫ 02 は長軸 0.55 ｍ、短軸 0.5 ｍ、深さ 0.14 ｍで円形を呈している。ＳＫ 03 は長軸 0.5 ｍ、短軸 0.3 ｍ、深さ 0.18 ｍで楕円形である。土師器、近世陶磁器（染付皿、刷絵、19 世紀後半）が出土したが、後者は取り上げ時の混入と考えられる。ＳＫ 04 は長軸 0.7 ｍ、短軸 0.4 ｍ、深さ 0.12 ｍでカクランに切られ、三角形を呈している。土師器が出土した。ＳＫ 05 は長軸 1.5 ｍ、短軸 0.85 ｍ、深さ 0.2 ｍで五角形である。土師器、鉄器小片が出土した。ＳＫ 06 は長軸 1.75 ｍ、短軸 1.1 ｍ、深さ 0.28 ｍでＬ字形を呈している。土師器、中世陶器２点が出土した。ＳＫ 07 は長軸 0.75 ｍ、短軸 0.6 ｍ以上で歪な方形で、北端をカクランによって切られ、

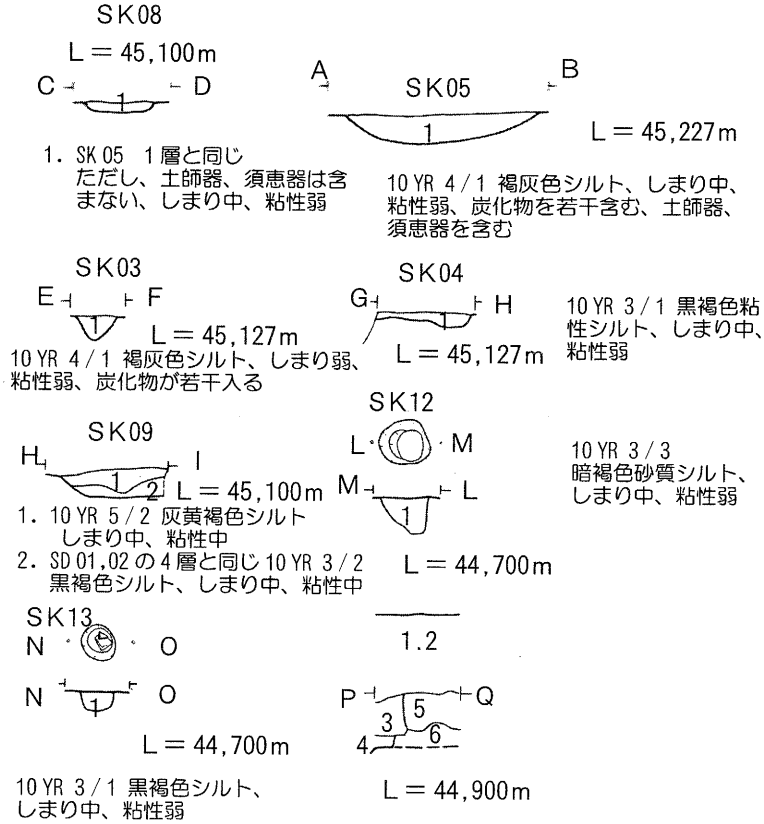


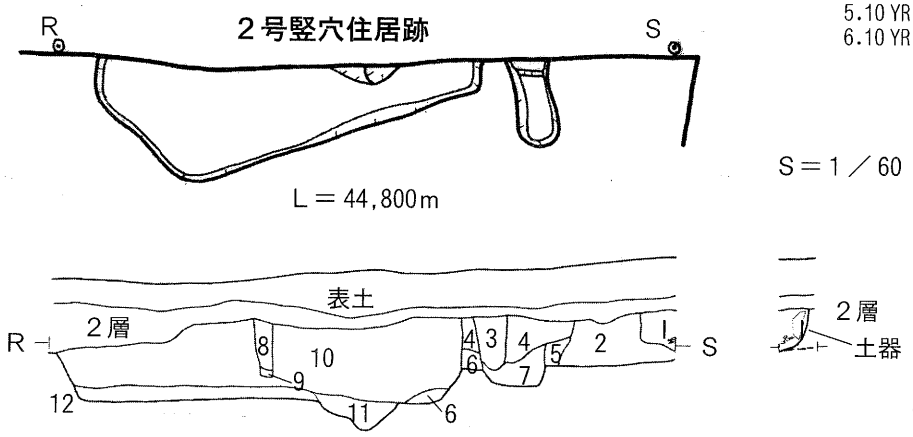
第５図　発見された遺構 (1)





1. 10 YR 4 / 1 褐灰色シルト、しまり中、粘性中、SK 05 と類似した埋土
2. 10 YR 3 / 3 暗褐色粘性シルト、しまり中、粘性中



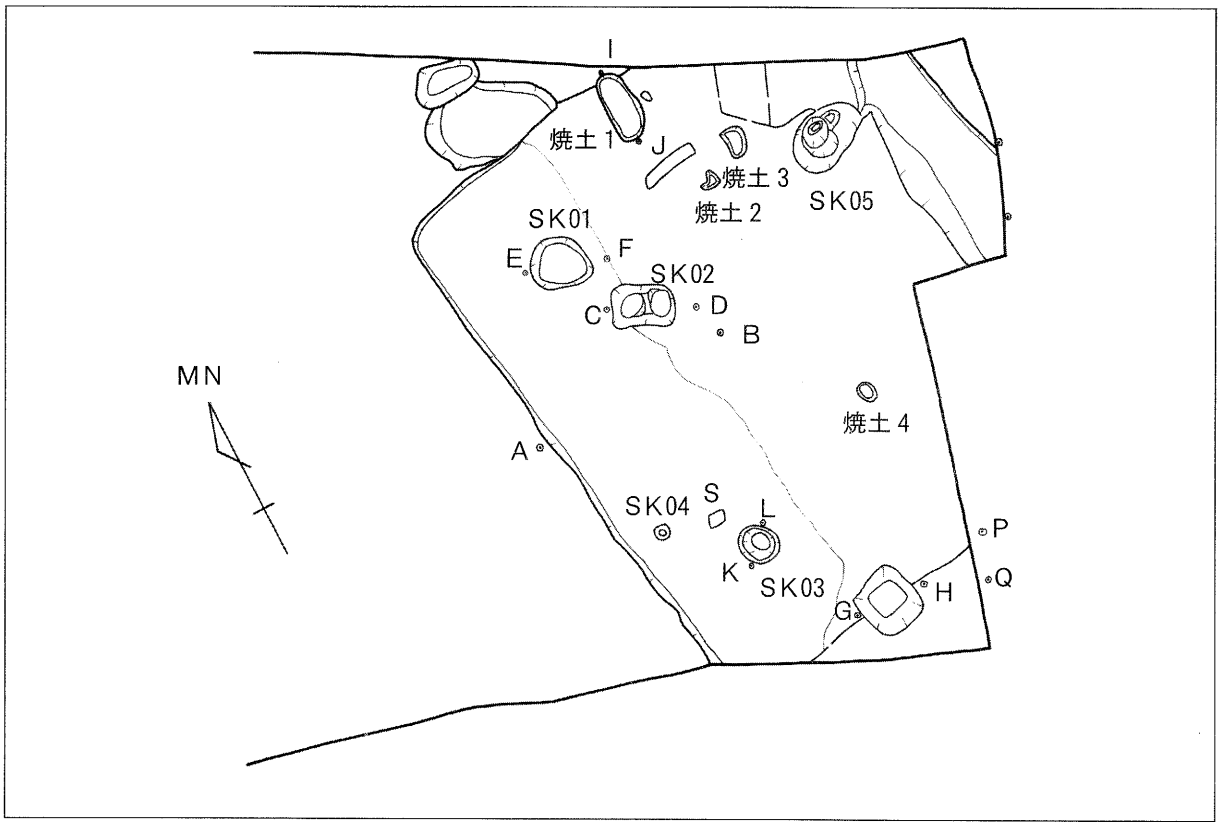


4. 10 YR 4 / 2 灰黄褐色シルト、しまり中、粘性中、基本層位 3 層より黄色ブロックが多い、焼土を若干含む
5. 10 YR 4 / 3 にぶい黄褐色シルト、しまり中、粘性弱、焼土が中程度含まれる、黄色ブロックも多く含まれる、カマドの袖

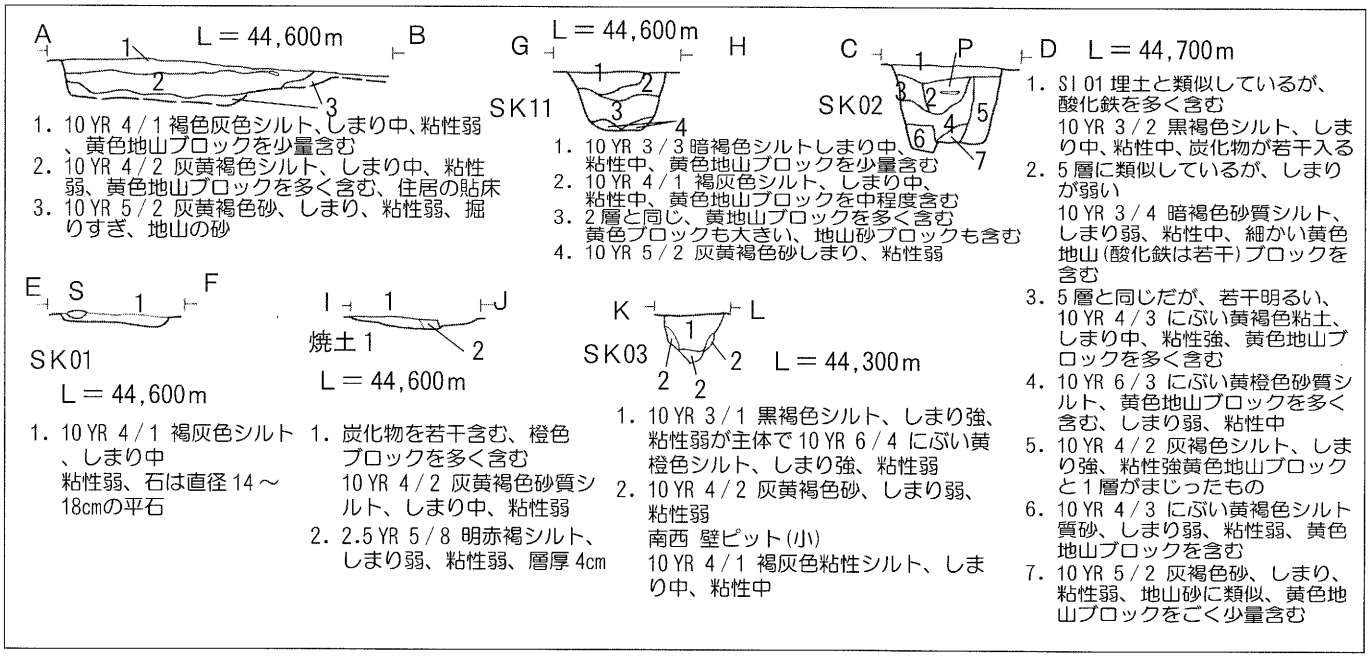
表土　10 YR 4 / 1 褐灰色シルト、しまり、粘性弱、2 層 5 / 3 にぶい黄褐色シルト、しまり弱、粘性弱
1. ピット埋土、10 YR 4 / 3 にぶい黄褐色シルト、しまり、粘性弱 炭化物が若干入る、中世陶器を含む、黄色ブロックを多く含む
2. 基本層位 3 層、10 YR 4 / 1 褐灰色シルト、しまり中、粘性弱、黄色ブロックを含む
3. 10 YR 6 / 1 褐灰色シルト、しまり弱、粘性中、黄色ブロック、炭化物を含む
6. 10 YR 5 / 3 にぶい黄褐色粘性シルト、しまり中、粘性中、焼土、炭化物、黄色ブロックを多く含む、カマドの袖
7. 10 YR 3 / 3 暗褐色シルト、しまり、粘性弱、橙色、黄色ブロックも多く含む
8. 10 YR 4 / 2 灰黄褐色シルト、しまり、粘性弱、ピット埋土
9. 10 YR 3 / 1 黒褐色粘性シルト、しまり中、粘性中、ピット埋土
10. 10 YR 4 / 1 褐灰色砂質シルト、しまり中、粘性弱、黄色ブロックを多く含む、人為的埋め戻し
11. 10 YR 5 / 6 黄褐色粘土、しまり中、粘性中、貼り床、黄色ブロックを多く含む
12. 地山 10 YR 5 / 4 にぶい黄褐色シルト質粘土、しまり中、粘性中

第６図　発見された遺構 (2)

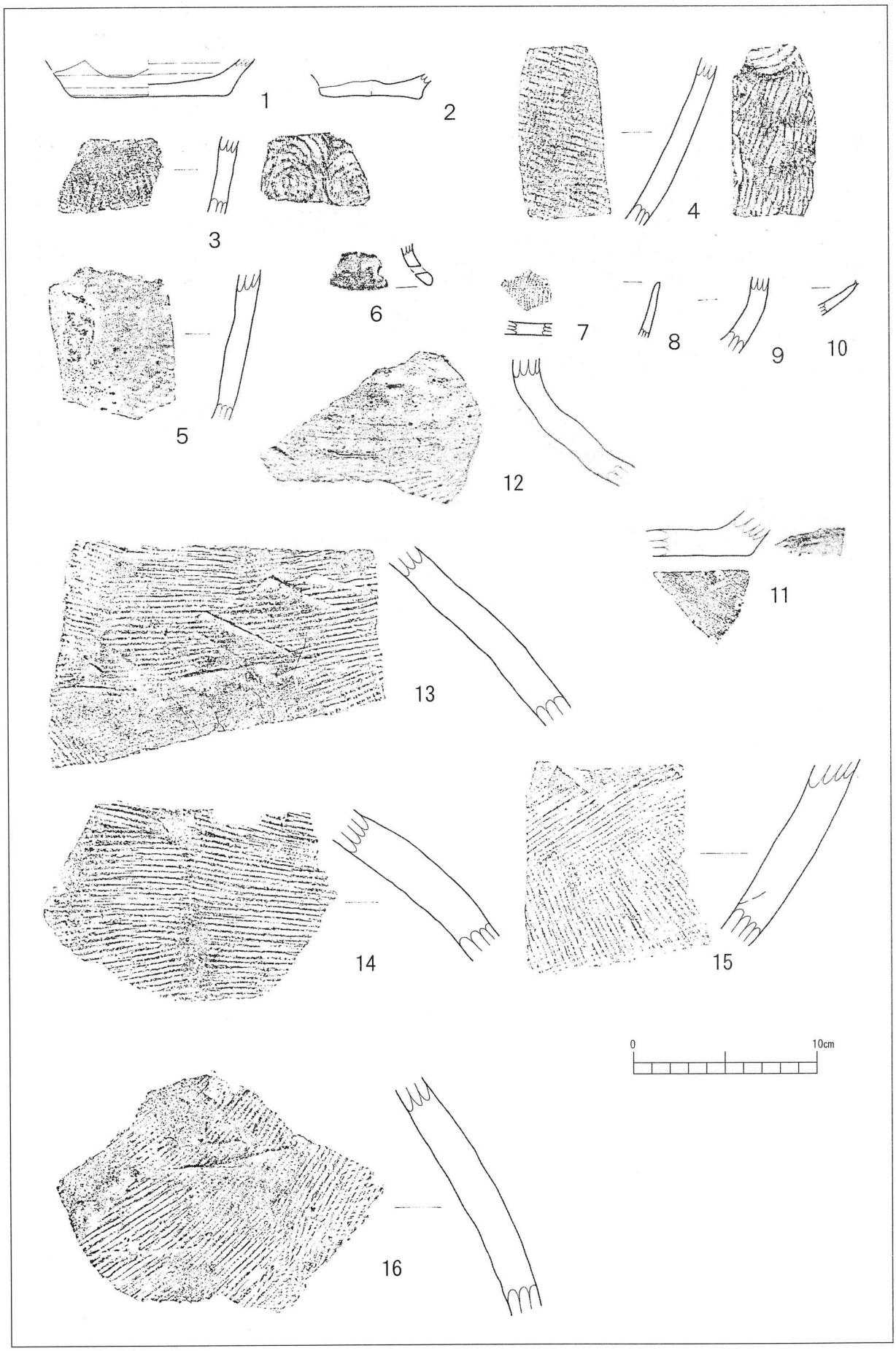
深さ0.12ｍである。ＳＫ08は長軸0.55ｍ、短軸0.4ｍ、深さ0.08ｍで楕円形、ＳＫ09は長軸0.75ｍ以上、短軸0.4ｍ以上、深さ0.23ｍ、正確な規模は不明である。ＳＫ10は長軸0.85ｍ、短軸0.75ｍ、深さ0.08ｍでＳＤ01に切られている。土師器が出土した。ＳＫ12は長軸0.4ｍ、短軸0.35ｍ、深さ0.28ｍ、円形である。土師器が出土した。ＳＫ13は長軸0.3ｍ、短軸0.25ｍ、深さ0.15ｍで円形で、土師器、中世陶器が出土した。ＳＫ14は調査区南西隅にあり、断面で確認した。規模は長軸0.5ｍ、深さ0.34ｍであった。ＳＫ12、14では大甕破片が重なった状態で廃棄



第７図　１号竪穴住居跡平面図（Ｓ＝１／100）



第８図　１号竪穴住居跡断面図（Ｓ＝１／60）

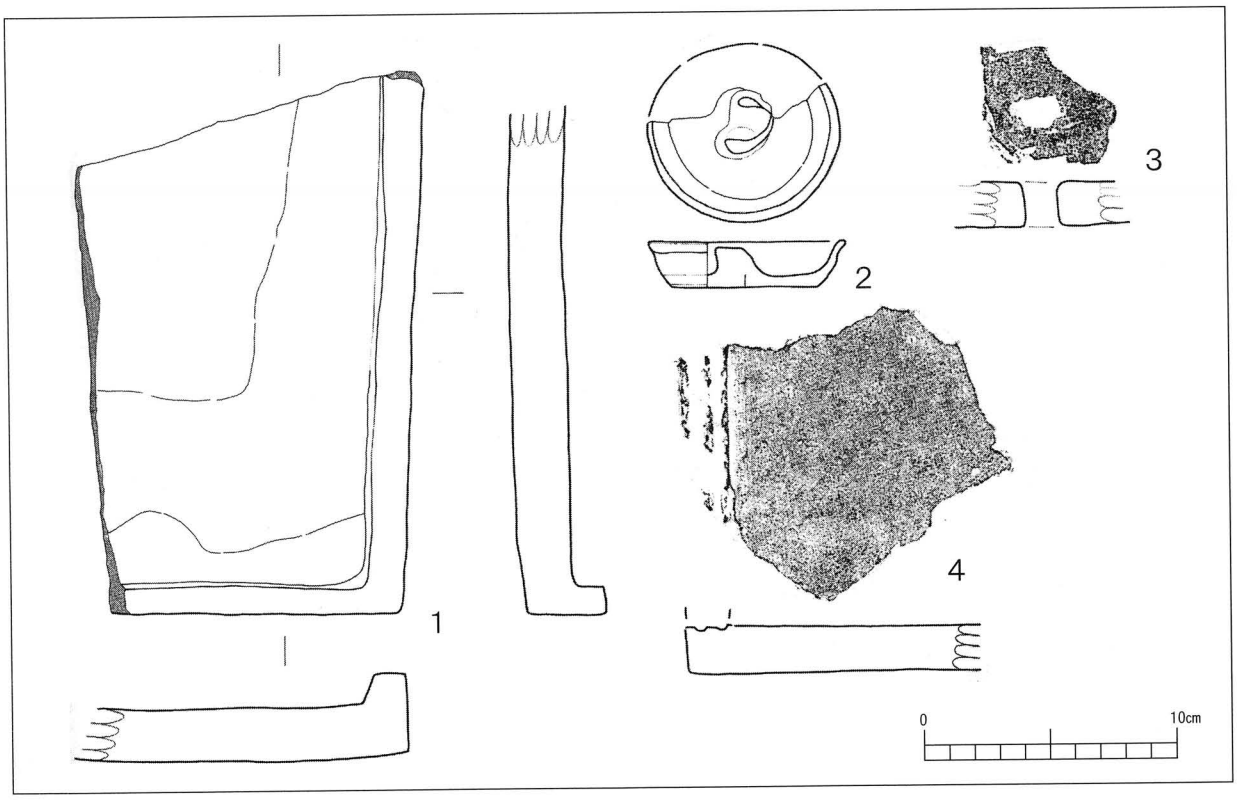


第９図　発見された遺物 (1)

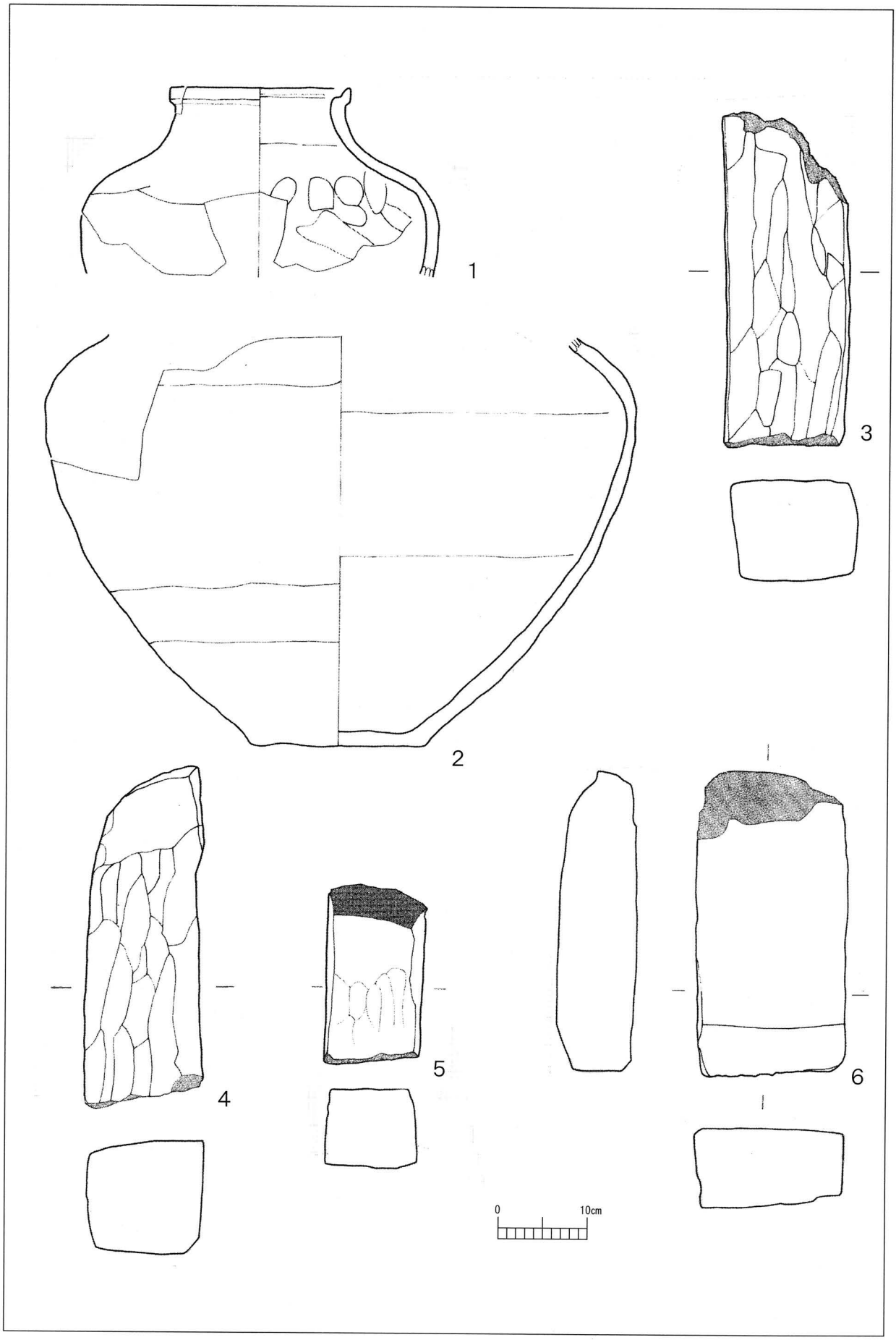
されていた。若干丸みを帯びた長さ0.28ｍの被熱礫が出土した。２号竪穴住居跡埋土を切っているピット２基がある。規模はそれぞれ直径が0.18～0.25ｍ、深さ0.4～0.45ｍであった。

第４層上面では竪穴住居跡２棟、土坑１基が確認された。７世紀中葉～後葉の１号竪穴住居跡は一辺が７ｍ程の規模で、北にカマドを設置し、焼土も確認されている。調査時に住居跡としての認識が遅れたので、埋土をだいぶ掘削してから平面形を確認した。西壁付近で埋土は0.35ｍであった。配置関係からＳＫ02、03、05が柱穴になると思われる。ＳＫ01は長軸0.75ｍ、短軸0.7ｍ、深さ0.08ｍで崩れた円形である。ＳＫ02は長軸0.85ｍ、短軸0.6ｍ、深さ0.64ｍで方形である。ＳＫ04は直径0.23ｍ、深さ0.3ｍの円形である。ＳＫ05は長軸1.1ｍ、短軸0.7ｍ、深い所で0.73ｍで楕円形である。焼土１は長軸１ｍ、短軸0.45ｍ、深さ0.1ｍの長楕円形、焼土４は直径0.2ｍ程、深さ0.05ｍの円形である。ＳＫ03は長軸0.55ｍ、短軸0.45ｍ、深さ0.35ｍで円形である。この住居跡を切っているＳＫ11は長軸0.9ｍ、短軸0.8ｍ、深さ0.45ｍで方形で、土師器が出土した。１号竪穴住居跡では西側及び東端で部分的に貼り床が確認され、土師器、須恵器、石製紡垂車、切石、鉄滓（４点、104.1ｇ）、焼成骨片（ＳＫ02）、円礫、長さ9.8㎝の棒状鉄器などが発見された。２号竪穴住居跡では貼り床、カマド、土坑が確認され、土師器、焼成骨片が出土された。両住居跡の側面がほぼ平行に配置されていることから、これらの住居跡は、ほぼ同時期に存在していたと推定される。

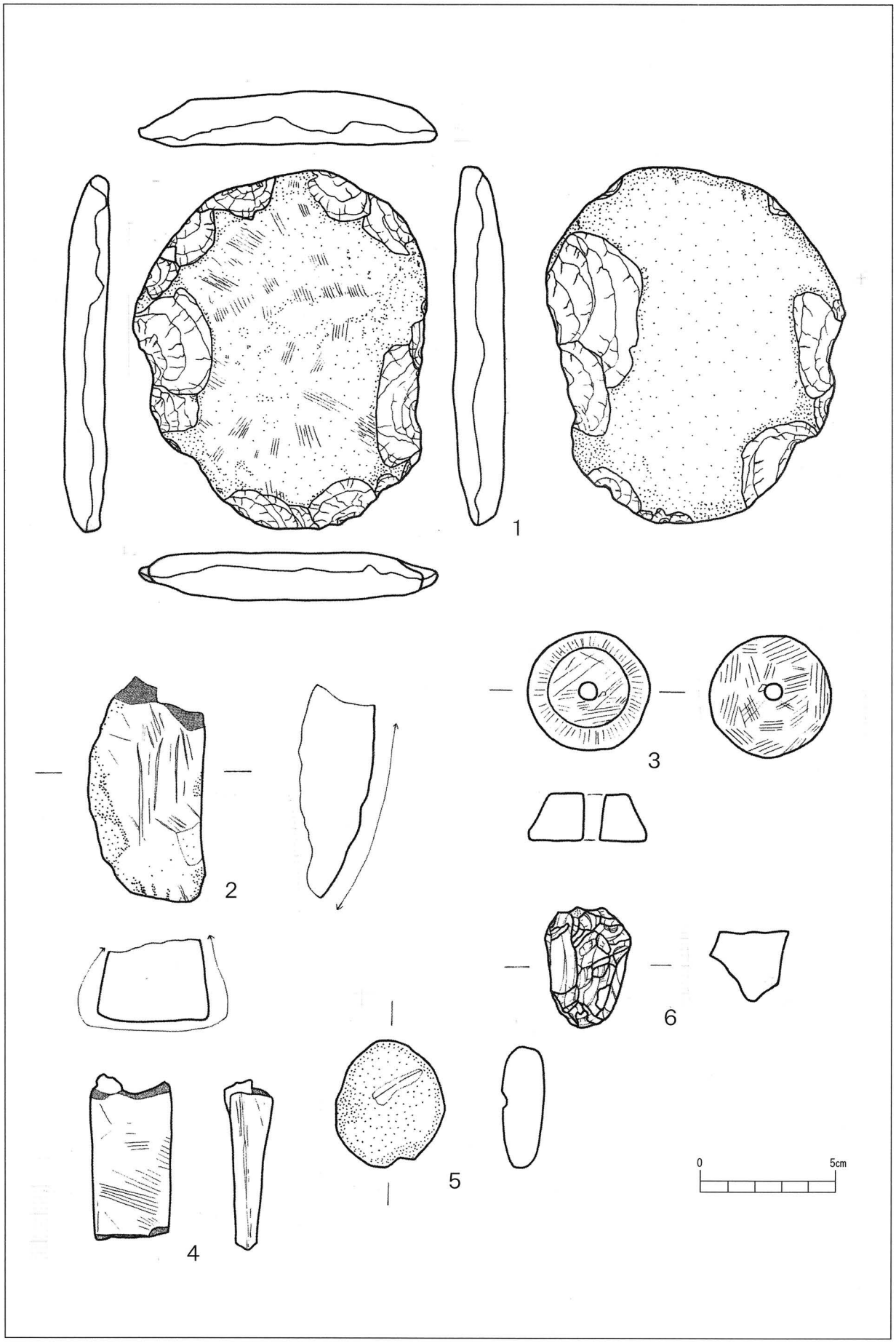
今回の調査区に西接する箇所での平成17年７月13日の確認調査では遺物包含層が確認されている（津田2006）。報告では遺物は小破片で図示するものはないと記しているが、実物を確認すると７世後葉～８世紀初めの土師器が出土している。確認調査トレンチの規模を考慮すると竪穴



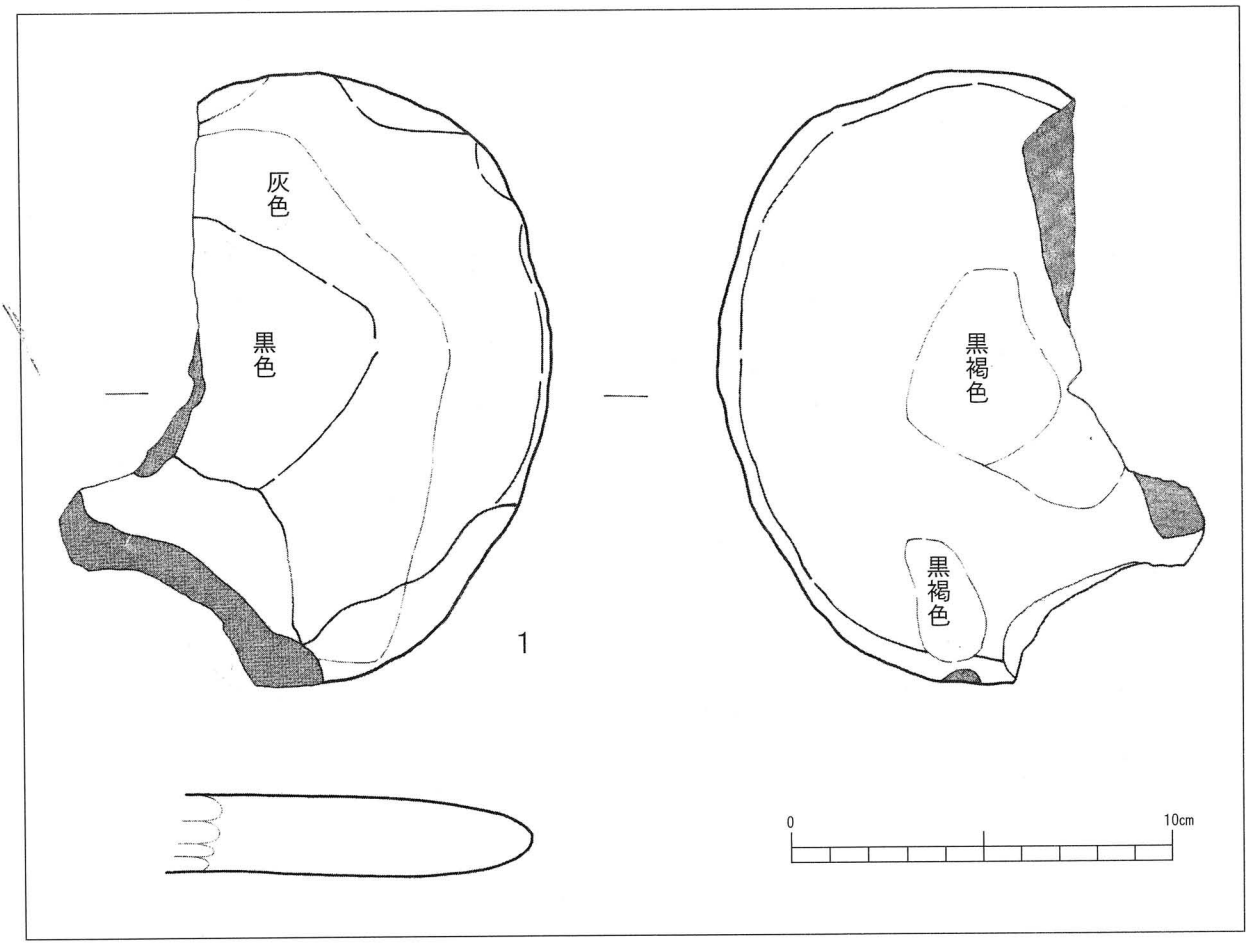
第10図　発見された遺物(2)



第 11 図　発見された遺物 (3)



第 12 図　発見された遺物 (4)



第13図　発見された遺物 (5)

住居跡の中心部を発掘した可能性が高く、今回のものと同時期の住居跡が広がっていることが指摘できる。

出土遺物のうち、中世陶器について述べることにする。第９図 12 ～ 16 は福島市毘沙門平窯もしくは赤川窯産と考えられるものである（吉岡 1994）。須恵器と異なり、内面にあて具痕がないこと、外面叩き目が細いなどの特徴がある。また、三筋壺（第９図９、写真 17 の１）は、産地不明であるが、複線が描かれるものである。いずれも１２世紀代に属するものと考えられる。青磁片（第９図８、写真 17 の２）は 12 世紀末～ 13 世紀前半のものである。白磁（写真 17 の３）は小片で特徴がつかみにくいが、１２世紀代の可能性が指摘できる。他に青磁（第９図 10、写真 17 の４）がある。図示、写真掲載はしなかったが、年代産地不明の白磁と推定される小片がある。

なお、１号及び２号竪穴住居跡から発見された古代の土器については、別項で詳論する。

古代の土器

第１号及び第２号住居跡から出土した遺物には土師器、須恵器、土製支脚などがある。出土状況に一括性は無く、住居に伴う遺物は１号住居貼り床出土の須恵器坏（第 15 図 5）のみで、その他は堆積土出土である。出土した資料は、いずれも破片資料で全体像がわかる資料は少ない。また、土器表面の摩滅が激しく器面調整も不明なものも多い。ここでは、図化し得た資料の特徴と年代について記述することにする。

■土師器■

図化し得た土師器には坏、高坏、椀、鉢、壺、甕、甑、ミニチュアと土製支脚がある。

第 14 図１、２の坏は丸底の底部と口縁部の境に稜をもつもので、底部にケズリあるいはミガキ、口縁部にヨコナデが施され、内面はミガキと黒色処理される。このような特徴をもつ坏は氏家和典氏の型式編年（氏家 1957）における第五型式土器＝栗囲式に該当する。

第 14 図３の坏は丸底の底部に短い口縁部が屈曲して直立するもので、器外面底部にケズリ、口縁部にヨコナデが施され、内面はナデ仕上げされ橙色に焼成されている。このような特徴をもつ坏は在地の栗囲式には認められず、その出自が関東北西部に求められる、いわゆる「関東系土師器」に属するものと考えられる。この類に属する関東系土師器は仙台市郡山遺跡、東松島市赤井遺跡、大崎市名生館官衙遺跡、権現山遺跡、南小林遺跡、灰塚遺跡、色麻町色麻古墳群など仙台平野から宮城県北部の大崎・石巻海岸平野に分布する７世紀後半から８世紀初頭頃の城柵官衙関連遺跡に類例がある。その出自を検討した高橋誠明氏（高橋 2007）によれば、第 14 図３に類似する土器は、埼玉県北西部から群馬県にかけて分布する「北武蔵型坏」に該当するものと考えられる。本資料は胎土に砂粒を含み在地土師器と同じ胎土を示すことから搬入品ではなく、在地で生産されたものと考えられる。

第 14 図４の椀は深い半球形を呈するもので、底部にケズリ、口縁部にハケメが認められ、内面はミガキと黒色処理される。このような特徴をもつ椀は金属器を模倣して出現した器種と考えられる。

第 14 図６～８は高坏片である。脚部は比較的高く、第 14 図８は脚部に長円形のスカシが穿たれている。このような特徴をもつ高坏は、７世紀後半から８世紀初頭の城柵官衙遺跡から多く出土している。

第 14 図 11 ～ 14、第 15 図１・２は甕あるいは壺、第 15 図３・４は甑である。いずれも頸部に段をもち口縁部が外反するもので、器面は口縁部にヨコナデ、体部にハケメが施される。このような特徴をもつ坏は氏家和典氏の型式編年における第五型式土器＝栗囲式に該当する。

■須恵器■

須恵器は出土数が少なく、図化できたのは３点である。

第 15 図５は坏で、丸底の底部に口縁部が直立気味になる小振りのものである。仙台市郡山遺跡に類例がある。陶邑窯TK 217 型式期に並行するものと考えられる。

第 15 図６は盤あるいは壺の口縁部片、第 15 図７は高坏片である。概ね、７世紀から８世紀初頭頃と考えられる。

■土師器・須恵器の年代と問題■

図化し得た土器の年代は、概ね、氏家和典氏の型式編年における第五型式土器＝栗囲式の範疇で捉えられ、７世紀から８世紀前半に位置づけられる。近年、宮城県中、南部の当該期の土器変遷について、村田晃一氏が様式的観点から提示している（村田 2007）。本資料は概ね村田氏の４～

5段階に相当し、年代的にも矛盾しない。特に、7世紀末～8世紀初頭頃を中心としたものが多いと考えられる。

本調査で得られた資料のなかに、「関東系土師器」が含まれていた。これまで関東系土師器は仙台平野以北の宮城県内に広く分布すると認識されてきたが、少数ながらも宮城県南部の本遺跡から出土したことは、関東系土師器の意味を考える上で貴重な発見といえる。

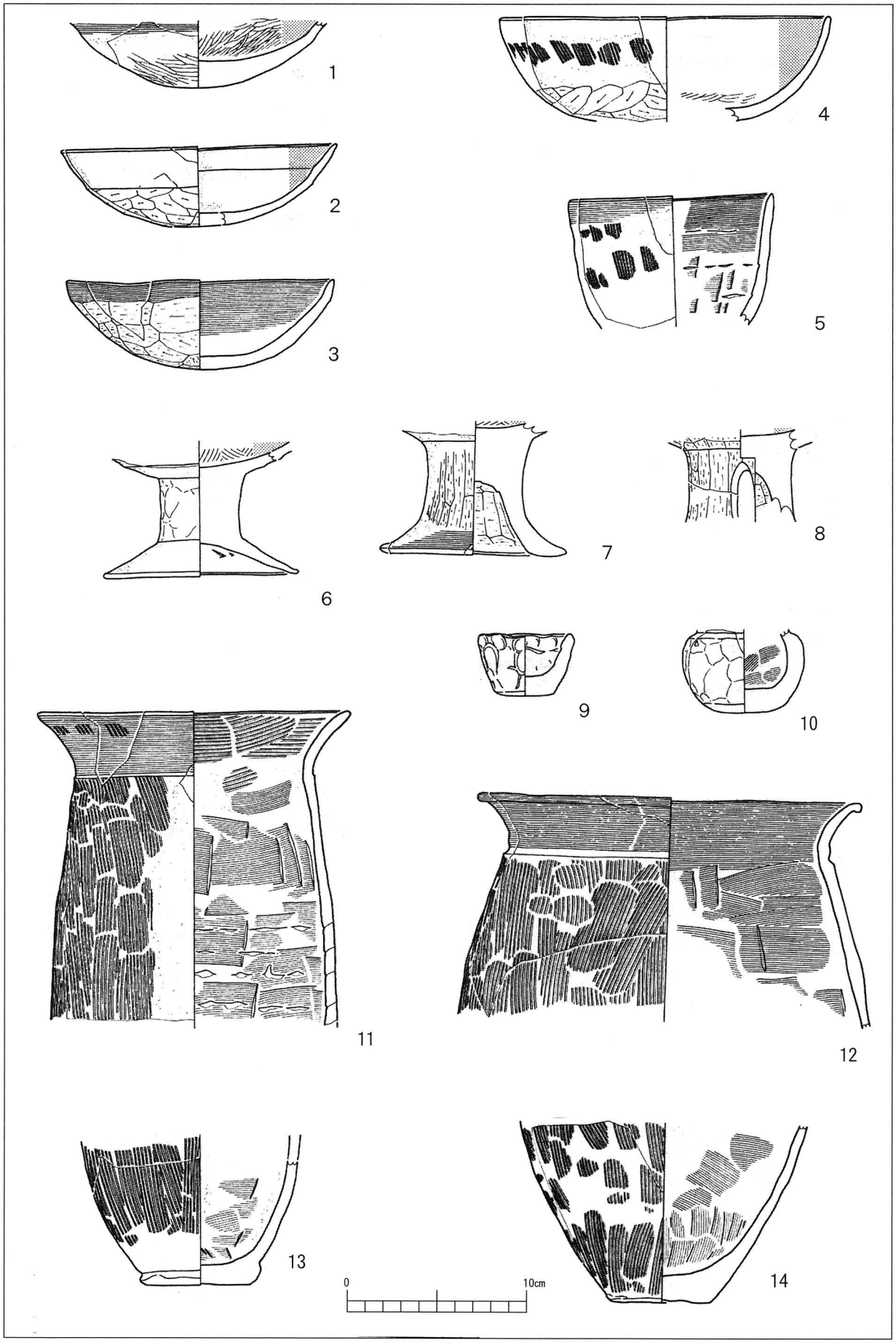
引用文献

氏家和典 1957 「東北土師器の型式分類とその編年」『歴史』第14 輯

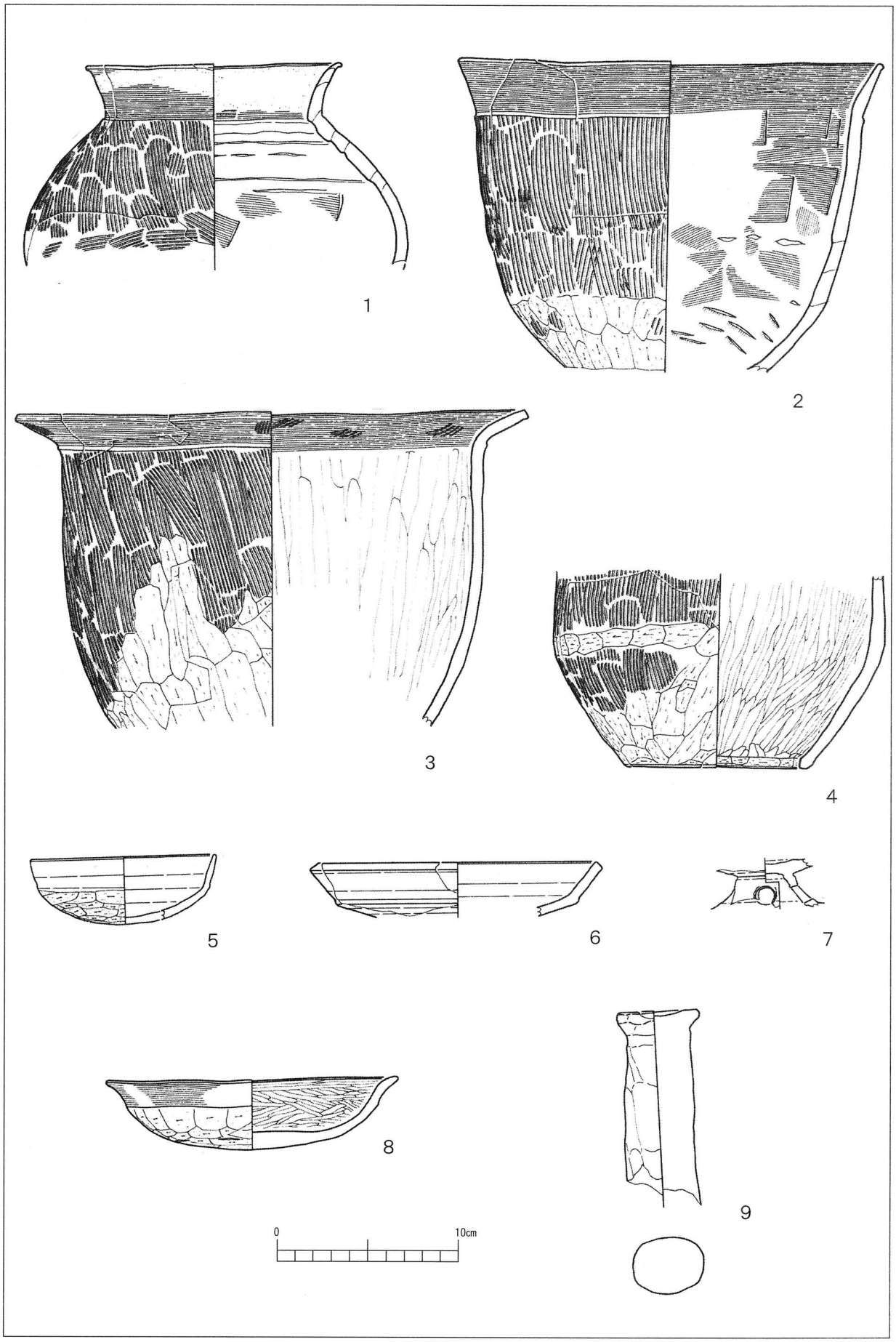
佐藤敏幸 2007 「第Ⅱ章 東北・北海道における6～8世紀の土器変遷と地域の相互関係―vi．宮城県北部・沿岸部―」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』平成15年度～平成18年度科学研究費補助金研究成果報告書 代表研究者辻秀人東北学院大学文学部

高橋誠明 2007「律令国家の成立期における境界地帯と関東との一関係」『国士舘考古学』第3号

村田晃一 2007 「第Ⅱ章 東北・北海道における6～8世紀の土器変遷と地域の相互関係―Ⅴ．宮城県中部から南部―」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』平成15年度～平成18年度科学研究費補助金研究成果報告書 代表研究者辻秀人東北学院大学文学部



第 14 図　発見された遺物 (6)



第 15 図　発見された遺物 (7)

地点②

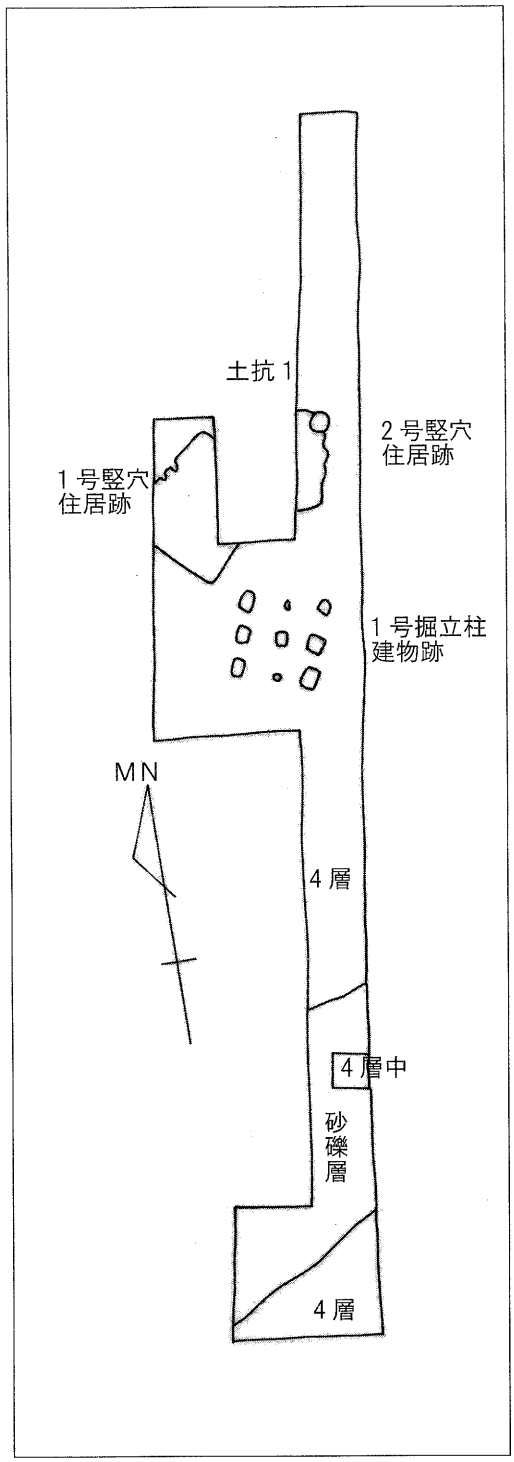
所在地　白石市字東大畑５９番、６０番

調査要因　住宅地造成　　調査期日　平成１９年６月４日～５日

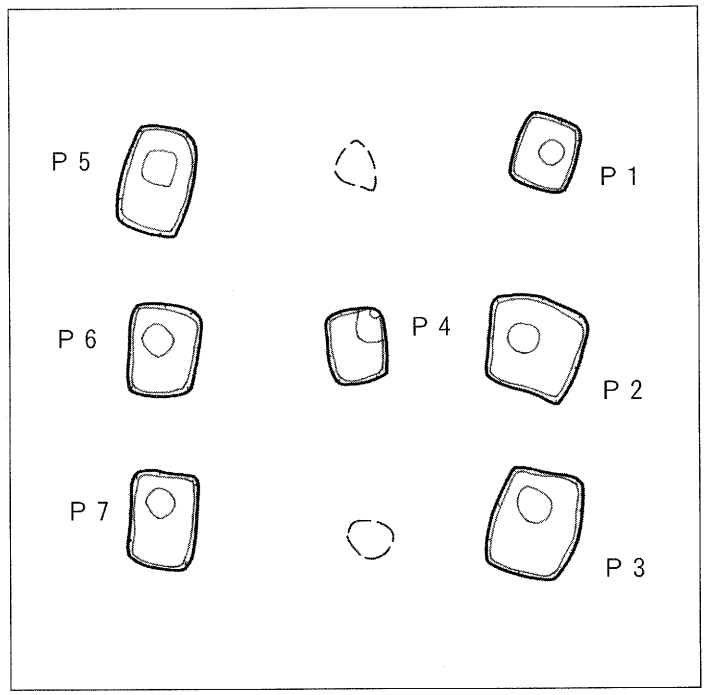
調査面積　1,052㎡　（掘削面積 170㎡）

遺跡はＪＲ東日本東北本線白石駅から 0.7 kmの位置にあり、現況は畑地である。周囲は宅地化が進んでいる。今回、宅地造成に伴う確認調査を実施した。確認調査トレンチは事業地中央より若干東側に設定した。調査区南端における基本層序は次のとおりである。第１層、表土、褐色土、層厚 38 cm、第２層、明茶褐色土、22 cm、第３層、黒褐色土、22 cm、第４層、黄褐色砂、10 cm以上であった。遺構確認面は第４層上面である。また調査区南半では、砂礫層があり、第３層下で第４層の上に堆積している。

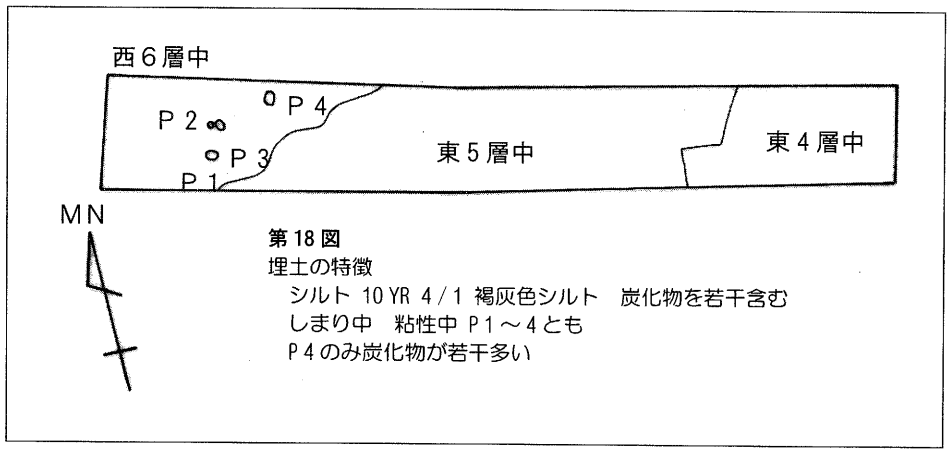
発見された遺構として掘立柱建物跡１棟、竪穴住居跡２棟、土坑１基、遺物包含層（第３層）がある。１号竪穴住居跡は全体形が不明であるが、片方は一辺５m程で北側に竈が設置され、埋土から土師器が出土している。２号竪穴住居跡は一辺が 4.2 mで、土坑に切られている。１号掘立柱建物跡の柱穴堀り方は一辺が 0.5 m～ 0.7 m程である。当初、総柱建物かと考えられたが、北辺と南辺中央の柱が明確に確認できず、門の可能性がある。柱痕跡は 0.2 m～ 0.3 m程であった。Ｐ４から土師器が出土している。基本層位から土師器、須恵器が発見された。土師器には９世紀～ 10 世紀代の台付鉢が含まれている。



第 16 図　地点② 平面図（Ｓ＝１／300）



第 17 図　地点②１号掘立柱建物跡平面図（Ｓ＝１／60）



第18図　地点③ 平面図（Ｓ＝1／150）

地点③

所在地　白石市字東大畑９－１の一部

調査要因　共同住宅建設　　調査期日　平成19年11月12日

調査面積　987㎡（掘削面積31㎡）

遺跡はＪＲ東日本東北本線白石駅から0.8㎞の位置にあり、現況は畑地である。周囲は宅地化が進んでおり、今回、共同住宅建設に伴う確認調査を実施した。確認調査トレンチは、アパート建築予定地、農作物を避けて設置した。直径が約20㎝～30㎝のピット４基、土師器を含む遺物包含層を確認した。土師器は西側に多く、東ほど少なかった。ピット埋土は褐灰色シルトであった。一部に炭化物が含まれている。第１層からは土師器、古瀬戸灰釉皿か椀（中世）が出土した。

その結果、次のような層序を確認した。調査区西側においては第１層、灰黄褐色シルト、第２層、灰黄褐色シルトに灰褐色粘土ブロックが入る、第３層、にぶい黄褐色粘性シルト、橙、灰褐色粘土ブロックを含む、ビニール片含む、第４層、褐灰色砂、第５層、褐灰色シルト質粘土、第６層、にぶい黄橙色シルト質粘土、遺構検出面、遺物包含層（剥片、土師器が出土）、全体で層厚84㎝であった。第２層から第５層は攪乱層であった。

調査区東側においては、第１層、灰黄褐色シルト、第２層、褐灰色砂、第３層、褐灰色シルト質粘土、第４層、褐灰色砂質シルト、酸化鉄の集積、第５層、褐灰色シルト質粘土、土師器が出土、第６層、にぶい黄橙色シルト質粘土に第５層ブロックが多く混じる、全体で層厚72㎝であった。西側第５層と東側第４層、西側第６層と東側第５層が対応する。

確認調査終了後、基礎工法の変更があり、表層土壌改良が実施される基礎部分の工事立会を実施し、遺物を採取した（72番）。

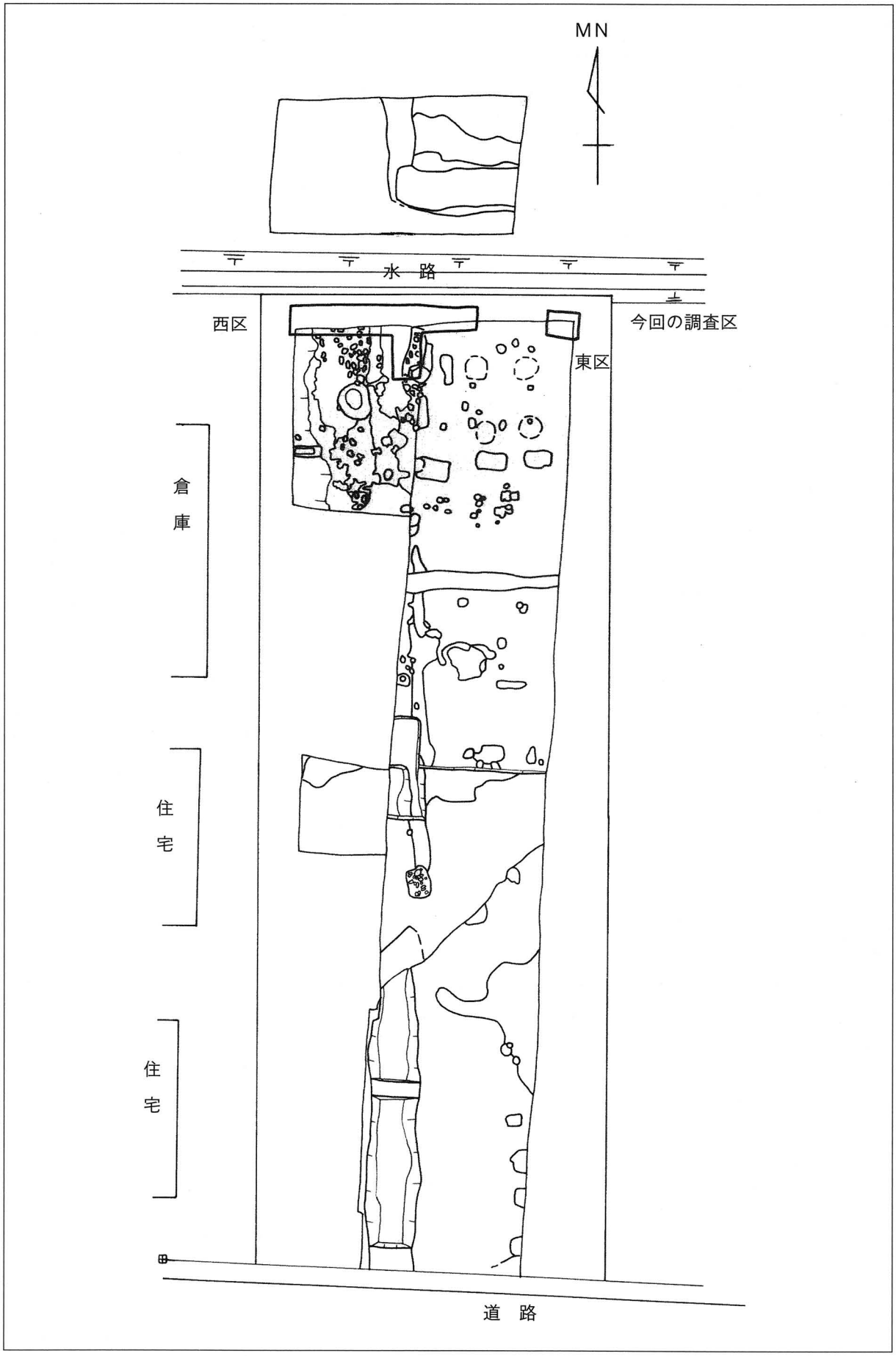
地点④

所在地　白石市字東大畑108番１

調査要因　宅地造成　　調査期日　平成19年12月20日～21日

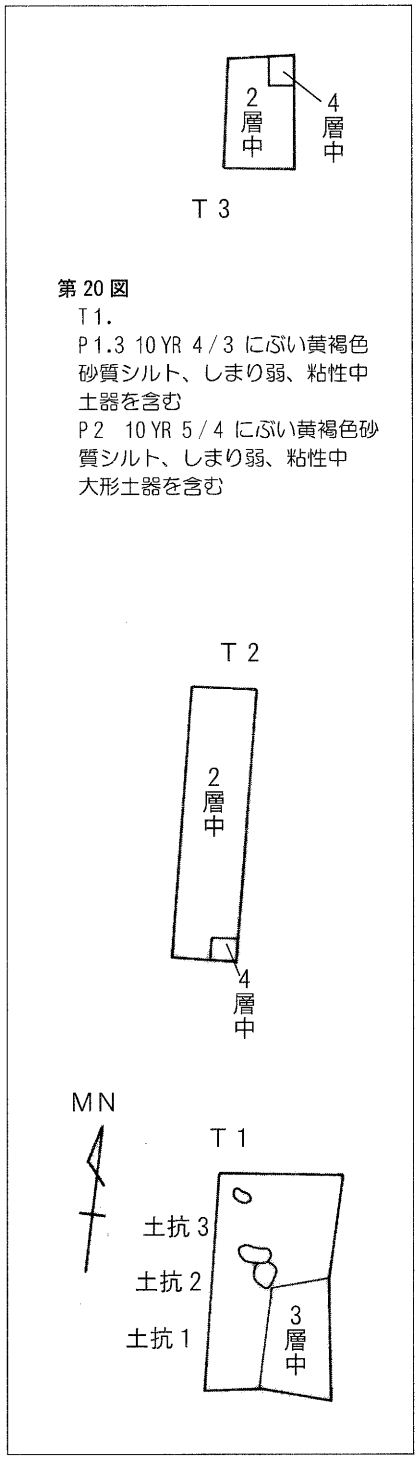
調査面積　462㎡（掘削面積9.7㎡）

遺跡はＪＲ東日本東北本線白石駅から0.6㎞の位置にあり、現況は畑地である。周囲は宅地化が進んでおり、今回、宅地造成に伴う確認調査を実施した。今回の調査箇所は、平成３年（1991）11月～12月に白石市教育委員会が確認調査を実施した箇所である。この箇所からは、北に延びる溝、礎石建物跡２棟、掘立柱建物跡１棟などが発見されている。



第19図　地点④ 平面図（S＝1／200）

今回、前回調査区北隣にコンクリート擁壁工事及び盛り土が実施されることになったため、遺構確認調査を実施した。この箇所は前回の調査において、水路沿いのため、調査範囲とならなかった箇所である。調査の結果、前回の調査において、断面で確認されていた礎石抜き取り痕を平面的に確認した。基本層位は次のとおりである。第１層：10 YR 4 / 3 にぶい黄褐色シルト、25 ～ 40 cm、第２層：10 YR 5 / 1 褐灰色シルト、20 cm、この層直下が遺構確認面である。第３層：10 YR 5 / 6 黄褐色粘性シルト、8 cm、西側にのみ分布。第１、２層、第３層から土師器が出土した。第１、２層から外面は黒釉、内面は白濁釉の椀？（19 世紀前半）、丹青色釉、あめ釉流し、鉢？（18 世紀代）、肥前産染付椀？（江戸時代）、中国産白磁椀？（中世）、須恵器、弥生土器片（縄文のみ）、時期不明瓦片が出土した。



第 20 図　地点⑤ 平面図（S＝1 / 150）

地点⑤

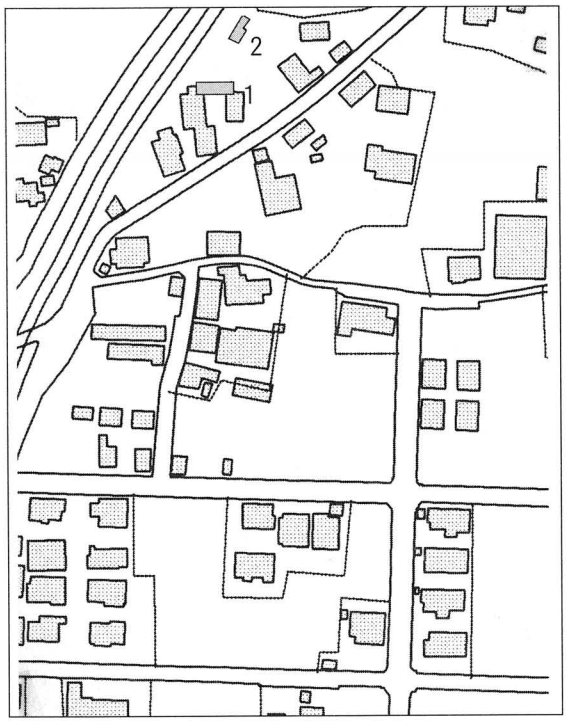
所在地　白石市字不澄ヶ池 100 番 1，100 番 3

調査要因　住宅建設　　調査期日　平成 20 年 1 月 31 日

調査面積　230.35㎡（掘削面積 18.86㎡）

遺跡はＪＲ東日本東北本線白石駅から 0.9 kmの位置にあり、現況は宅地である。周囲は宅地化が進んでおり、今回、住宅建て替えに伴う確認調査を実施した。確認調査トレンチは擁壁、水道施設の構造物を避けて３箇所ほど設定した。

その結果、次のような遺構、層序を確認した。Ｔ１においては土坑３基が発見され、長軸は 0.4 ～ 0.7 ｍであった。土坑１と２は切り合っており、土坑２の方が新しい。土坑１には土師器細片、土坑２には土師器甕が口縁部を東に向けた状態で埋設されていた。基本層位は第１層、にぶい黄褐色シルト、層厚 35 cm、第２層、褐色砂質シルト、20 cm、第３層、にぶい黄褐色砂 30 cm以上、３層上面が遺構確認面である。Ｔ２、Ｔ３においては遺構、遺物は確認されなかった。基本層位はＴ１と類似しているが、Ｔ１の３層に対応する層の標高が高くなるようである。今回の調査結果により、大畑遺跡は東北本線西側においても確実に遺構が広がることが判明した。３層出土の土師器は７世紀後半から８世前半のものと考えられる。



第21図　弥陀内遺跡調査区位置図（S＝1／2,500）

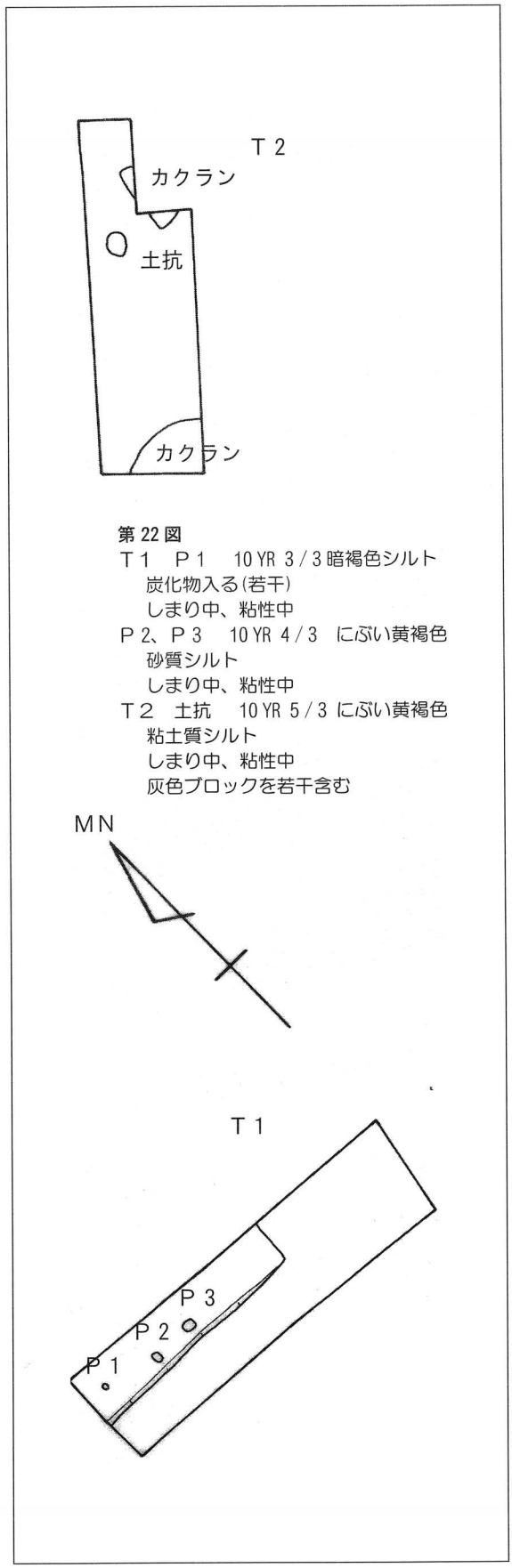
2　弥陀内遺跡

県遺跡番号　02263　　遺跡略号　ミダウチ
所在地　白石市字十王堂前71番1
調査要因　居宅建築工事
調査期日　平成19年4月24日
調査面積　781㎡（掘削面積35㎡）

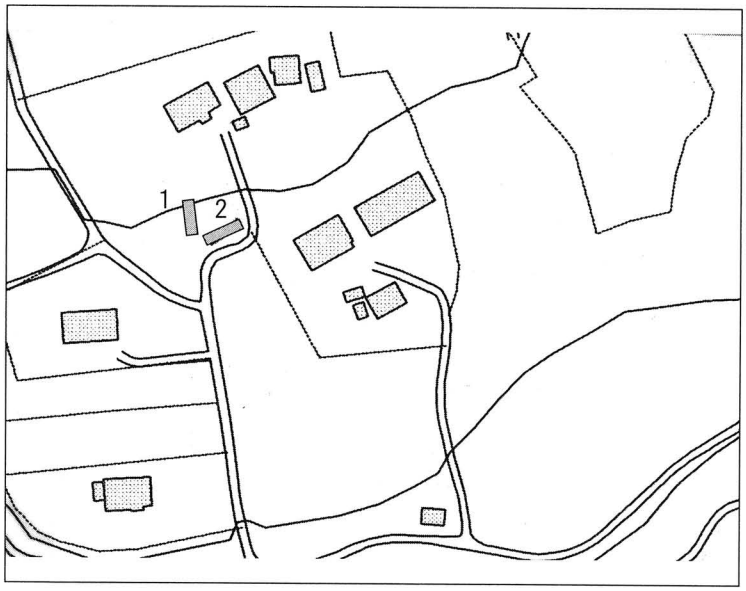
遺跡はＪＲ東日本東北本線白石駅から北約0.9kmに位置している。今回の調査対象地の現況は更地である。周囲は農地、宅地となっている。

確認調査トレンチは鉄道沿い、建築地、通路予定地を避け、事業地内に2箇所設定した。その結果、埋蔵文化財が確認された。Ｔ１では、第1層、黄褐色盛土、36cm、第2層、暗褐色シルト質砂、旧表土、14cm、第3層、にぶい黄褐色シルト質砂、土師器、中世陶器（渥美産、12世紀、写真20の1）が出土、25cm、第4層、褐色砂、20cm以上となっていた。3層上面からピット3基が発見された。規模は20～30cmほどで、円形や方形基調のものである。ピット2からは瀬戸美濃産灰釉皿の口縁部破片（15～16世紀）が1点出土した。

Ｔ２では、第1層、盛り土、37cm、第2層、



第22図　弥陀内遺跡平面図（S＝1／150）



第 23 図　下館遺跡調査区位置図（S＝1／2,500）

黄褐色盛り土、25 cm、第３層、にぶい黄褐色シルト質砂、20 cm、第４層、褐色シルト質砂、16 cm、第５層、黄褐色シルト質砂、12 cm以上、土師器が出土した。なお、第４層は北東部でしか確認されていない。東北隅、南端では攪乱があり、廃棄物が含まれていた。５層上面からは楕円形のピット１基が発見され、規模は長軸 60 cm、短軸 40 cmであった。表土から産地、時期とも不明の陶器が１点発見された。

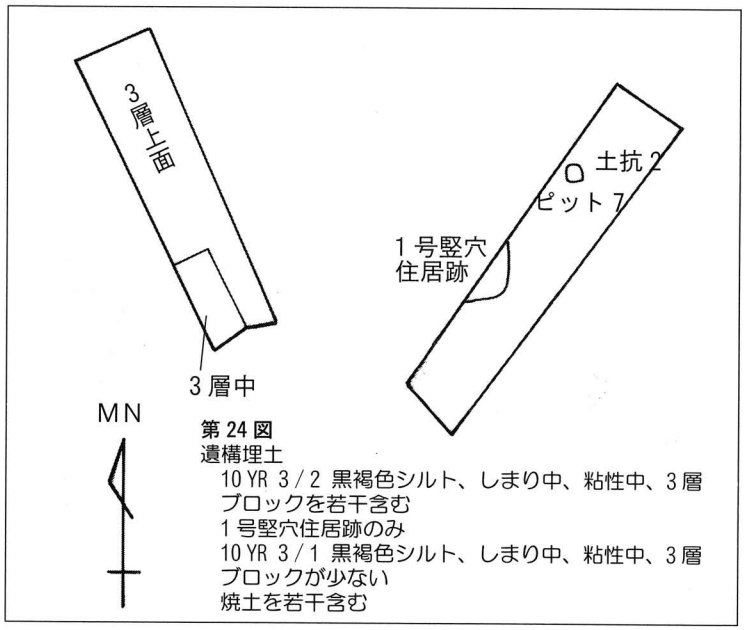
3　下 館 遺 跡

県遺跡番号　02307　　遺跡略号　下ダテ
所在地　白石市福岡深谷字下舘 111 番地４
調査要因　住宅建築工事　　調査期日　平成 19 年５月 18 日
調査面積　603㎡　（掘削面積 56.3㎡）

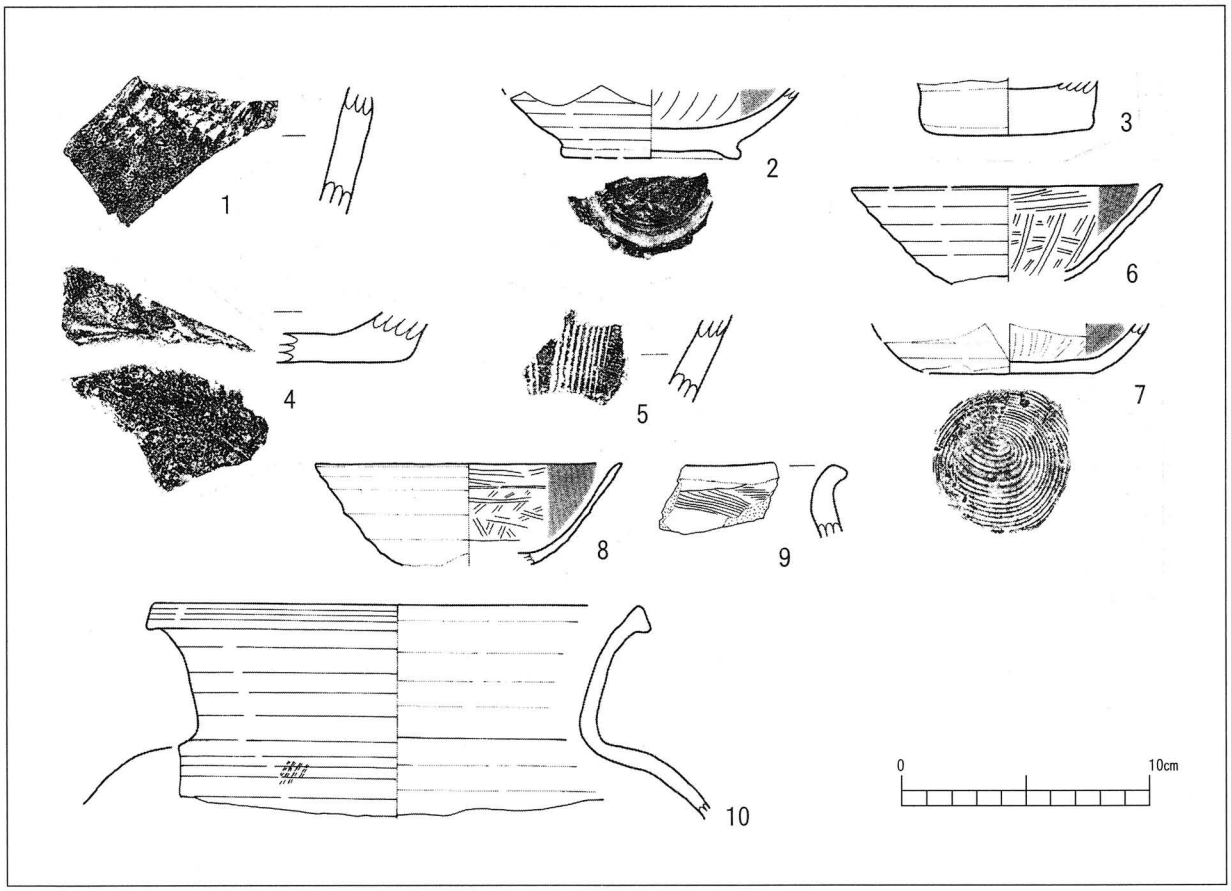
今回、個人住宅建設に伴い確認調査を実施した。確認調査トレンチは住宅建築地、水路及び電柱沿いを避け２箇所設定した。

基本層序は次のとおりである。第１層・表土、暗褐色シルト、層厚 40 cm、第２層、褐色シルト、30 cm、第３層、黄褐色粘土、礫を多く含む、20 cm以上であった。第３層からは湧水が著しかった。

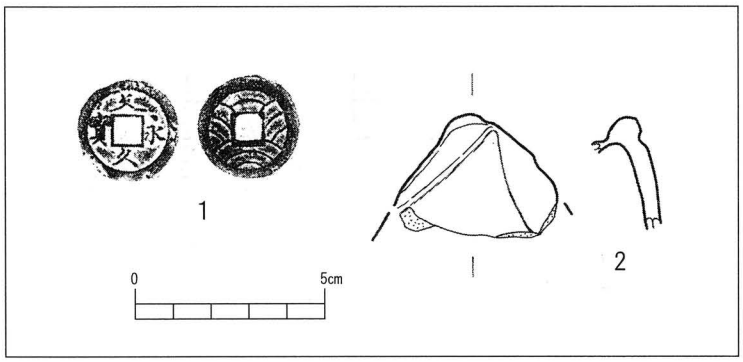
調査の結果、Ｔ１の２層から土鈴破片、Ｔ２では３層上面において竪穴住居跡１棟、土坑２基、ピット７基が発見された。竪穴住居跡は南東隅を確認しただけであるが、一辺 1.5 m以上、深さは 0.2 m以上である。埋土から多くの表杉ノ入式土師器が出土している。土坑１は調査区北西隅で発見され、須恵器甕口縁部が出土した。ピットは直径 20～30 cmのものが多かった。今回、遺構は３層上面において確認したが、断面精査の結果、２層上面から掘り込まれていたことが判明した。土坑１、ピット１～６は断面において確認した。全体として遺構はトレンチの北東側に多くみられた。時期は出土遺物の特徴から９世紀後半と考えられる。



第 24 図　下館遺跡平面図（S＝1／250）



第 25 図　発見された遺物 (1)



第 26 図　発見された遺物 (2)

引用参考文献

津田優佳　2005　白石市文化財調査報告書第 29 集　市内遺跡発掘調査報告書 I

津田優佳　2006　白石市文化財調査報告書第 30 集　市内遺跡発掘調査報告書 II

吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』吉川弘文館

出土遺物観察表（1）

図版番号	出土位置、層位	種　別	外面の特徴	内面の特徴	備　考
第９図１	ＳＤ 01 埋土	土師器坏	ロクロナデ、底面は回転糸切	ロクロナデ	底径 8.4 ㎝、残存高 2 ㎝
第９図２	ＳＤ 03 埋土	土師器坏	ロクロナデ、底面は回転糸切	ロクロナデ	底径 5.5 ㎝、残存高 1.2 ㎝
第９図３	ＳＤ 01 埋土	須恵器甕	平行叩き	青海波文	
第９図４	ＳＤ 03 検出面	須恵器甕	平行叩き	青海波文、平行叩き	
第９図５	ＳＤ 03	須恵器	ナデ、付着物	丁寧なナデ	
第９図６	表土	土師器、台部分	ミガキ、孔	摩滅	
第９図７	表土	土師器、坏底面	糸切り痕、ヘラ書き	ナデ	
第９図８	ＳＤ 03	青磁椀	施釉	施釉、湾曲した２本の沈線	写真 17 の２
第９図９	ＳＤ 03 埋土	三筋壺	施釉、沈線、複線	ナデ	写真 17 の１
第９図 10	ＳＤ 03	青磁椀	上半は施釉	施釉、平行沈線	写真 17 の４
第９図 11	ＳＤ 03 埋土	須恵器底部	自然釉	ナデ	
第９図 12	ＳＤ 03 埋土	中世陶器甕	横ナデ、叩き目	横ナデ	写真 16 の１
第９図 13	ＳＤ 03 埋土	中世陶器甕	平行叩き	オサエ痕	写真 16 の２
第９図 14	ＳＤ 03 埋土	中世陶器甕	平行叩き	オサエ痕	写真 16 の３
第９図 15	ＳＤ 03 埋土	中世陶器甕	交差する平行叩き	オサエ痕	写真 16 の４
第９図 16	ＳＤ 03 確認面	中世陶器甕	平行叩き	オサエ痕	

出土遺物観察表（2）

図版番号	出土位置、層位	種　別	外面の特徴	内面の特徴	備　考
第 10 図１	ＳＫ 14	中世陶器硯	ナデ	ナデ、色調の違いあり	残存長 21.5 ㎝、残存幅 13.6 ㎝、厚さ 2.3 ㎝、写真 18
第 10 図２	ＳＤ 01	近世陶器、灯明皿	芯受け、黒釉	黒釉、底面はロクロ痕、黒色物質付着	口径 7.6 ㎝、底径 5.5 ㎝、器高 1.8 ㎝、産地不明
第 10 図３	ＳＤ 01 埋土	軒平瓦	直径約１㎝の焼成後の穿孔	粘土の貼り付け痕	厚さ 1.8 ㎝
第 10 図４	ＳＤ 01 埋土	軒平瓦	左端に接合痕		厚さ 1.8 ～ 2.0 ㎝

出土遺物観察表（3）

図版番号	出土位置、層位	種　別	外面の特徴	内面の特徴	備　考
第 11 図１	SK 13、SK 14	中世陶器甕	受け口状口縁、横ナデ	横ナデ、ナデ	推定口径 19 ㎝、推定体部径 39 ㎝、残存高 21.5 ㎝、東北窯産
第 11 図２	SK 13、SK 14	中世陶器甕	ナデ	ナデ	推定体部径 65 ㎝、残存高 47.6 ㎝、東北窯産
第 11 図３	１号住居跡カマド	切石	ケズリ、黒褐色、薄紫色に変色している。側面には帯状に変色していない箇所あり		残存長 36.4 ㎝、幅 13.6 ㎝、厚さ 11.1 ㎝、ｽｸﾘｰﾝﾄｰﾝ部分は割れ
第 11 図４	１号住居跡カマド	切石	ケズリ、黒褐色、薄紫色に変色している。		残存長 36.7 ㎝、幅 13.3 ㎝、厚さ 12.7 ㎝、写真 19
第 11 図５	１号住居跡カマド付近	切石	ケズリ、下半は黒褐色、薄紫色に変色している箇所あり		残存長 19.9 ㎝、幅 10.5 ㎝、厚さ 10.2 ㎝
第 11 図６	１号住居跡カマド付近	切石	ケズリ、下端は薄紫色に変色している箇所あり		残存長 33.5 ㎝、幅 16.7 ㎝、厚さ 8.8 ㎝

出土遺物観察表（４）

図版番号	出土位置、層位	種　　別	特　　徴	備　　考
第12図１	１号住居跡埋土	円盤型石器	縁辺に剥離がなされている。中央部の一部に擦痕がある。酸化鉄分が付着。長さ12.9 cm、幅10.6 cm、厚さ1.8 cm、重量231.8 g	
第12図２	１号住居跡埋土	砥石	中央に研磨痕跡がある。残存長8.2 cm、幅4.1 cm、残存厚さ2.6 cm、重量105.7 g	ｽｸﾘｰﾝﾄｰﾝ部分は割れ、以下同じ
第12図３	１号住居跡埋土	石製紡錘車	中央に孔がある。擦痕が全体を覆っている。孔径0.6 cm、最大径4.3 cm、高さ1.7 cm、重量53 g	
第12図４	ＳＤ03埋土	砥石	４面に研磨痕跡がある。左上に酸化鉄分が付着している。残存長5.5 cm、幅2.8 cm、厚さ0.6～1.3 cm、重量29.6 g	
第12図５	１号住居跡埋土	擦痕のある円礫	斜めに擦痕がある。長さ4.5 cm、幅3.8 cm、厚さ1.5 cm、重量　27.7 g	
第12図６	ＳＤ01埋土	石核	石英、長さ4.4 cm、幅3.1 cm、厚さ2.5 cm、重量42.2 g	
第13図１	ＳＤ03埋土	被熱扁平礫	被熱を受け、黒色、灰色化した礫、長さ16.2 cm、残存幅12.2 cm、最大厚2.2 cm、重量408 g	

出土遺物観察表（５）

図版番号	出土位置	種　　別	外面の特徴	内面の特徴	備　　考
第１４図１	１号住居跡、埋土南西区	土師器坏	ヨコナデ、ミガキ、マメツ、明赤褐色５YR５／６	ミガキ、黒色処理、黒Ｎ２／	
第１４図２	１号住居跡、埋土北中央区	土師器坏	ケズリ、マメツ、黄橙7.5 YR７／８	マメツ（ミガキ、黒色処理）、灰Ｎ４／	推定口径15 cm、器高4.4 cm
第１４図３	１号住居跡、埋土南西区	土師器坏	ヨコナデ、ケズリ、橙５YR７／６	ヨコナデ、ナデ、橙５YR７／６	口径14.6 cm、器高5 cm、写真21
第１４図４	１号住居跡、埋土西区	土師器椀	マメツ、ハケメ、ケズリ、橙５YR６／６	ミガキ→黒色処理→マメツ、黒Ｎ２／	推定口径18 cm
第１４図５	１号住居跡、埋土北区	土師器小甕	ヨコナデ、ハケメ、灰黄褐色10 YR６／２	ヨコナデ、ナデ、灰白10 YR８／２	推定口径11.2 cm
第１４図６	２号住居跡、埋土	土師器高坏	マメツ、オサエ、ナデ、マメツ、橙2.5 YR６／８	ミガキ、黒色処理、マメツ、ヘラナデ→マメツ、黒Ｎ２／	直径10.6 cm、写真22
第１４図７	１号住居跡、埋土南東区	土師器高坏	ケズリ、ヨコナデ、橙５YR７／６	ミガキ、黒色処理、ケズリ→マメツ、黒Ｎ２／	直径10.2 cm
第１４図８	１号住居跡、埋土	土師器高坏	透かし、ケズリ、橙2.5ＹＲ７／６	ミガキ、黒色処理、マメツ、ケズリ、黒Ｎ２／	直径5.6 cm
第１４図９	１号住居跡、埋土	ミニチュア	ナデツケ、底面は無調整、橙7.5 YR７／６	輪積み痕、オサエ、橙2.5 YR６／６	口径5.5 cm、器高3.5 cm、底径3 cm
第１４図10	１号住居跡、埋土北区	ミニチュア	マメツ、オサエ、にぶい赤褐５YR５／４	ナデ、灰褐7.5 YR５／２	推定最大径6.8 cm、底径3 cm
第１４図11	１号住居跡、埋土東区	土師器甕	ハケメ→ヨコナデ、ハケメ→マメツ、浅黄橙10 YR８／３	ハケメ、ヘラナデ、浅黄橙10 YR８／３	推定口径17 cm
第１４図12	１号住居跡、埋土南区	土師器甕	ヨコナデ、ハケメ、橙7.5 YR７／６	ヨコナデ、ヘラナデ、にぶい黄橙10 YR６／３	推定口径21 cm
第１４図13	１号住居跡、埋土南区	土師器甕	ハケメ、無調整、木葉痕、暗褐7.5 YR５／１	マメツ、ヘラナデ、浅黄橙7.5 YR８／３	底径5.5 cm
第１４図14	１号住居跡、埋土東区	土師器甕	ハケメ、木葉痕、暗褐7.5 YR３／３	ヘラナデ、明赤褐５YR５／４	底径5.4 cm

出土遺物観察表（６）

図版番号	出土位置	種　別	外面の特徴	内面の特徴	備　考
第１５図１	１号住居跡、埋土南、南東、東区、ＳＤ 03 埋土、南区	土師器壺	ハケメ→ヨコナデ→マメツ、ハケメ、浅黄橙 10 YR 8 / 3	ハケメ→ヨコナデ→マメツ、輪積み→ヘラナデ、にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	推定口径 14 cm、推定体部径 20.8 cm、写真 23
第１５図２	１号住居跡、埋土西区	土師器甕	ハケメ→ヨコナデ、ハケメ→ケズリ、灰黄褐 10 YR 6 / 2	ヨコナデ、ヘラナデ、黒Ｎ 2 /	甑の可能性あり、推定口径 23.2 cm
第１５図３	１号住居跡、埋土北区	土師器甑	ヨコナデ、ハケメ→ケズリ、橙５YR 6 / 6	ヨコナデ、ケズリ→ミガキ、橙 7.5 YR 7 / 6	推定口径 28 cm
第１５図４	１号住居跡、埋土南東区	土師器甑	ハケメ、ケズリ、にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	ミガキ、ケズリ、にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	推定底径 10 cm
第１５図５	１号住居跡、貼床東側、ＳＫ 02	土師器坏	ロクロナデ、ケズリ、橙 7.5 YR 7 / 6	ロクロナデ、橙 7.5 YR 6 / 6	推定口径 10.2 cm、推定器高 3.7 cm
第１５図６	１号住居跡、埋土東区	須恵器壺	ロクロナデ、灰 7.5 Y 6 / 1	ロクロナデ、灰５Y 6 / 1	推定口径 16 cm
第１５図７	１号住居跡、埋土東区	須恵器高坏	ロクロナデ、円窓２対、灰 7.5 Y 6 / 1	ロクロナデ、灰 10 Y 5 / 1	直径 3 cm、写真 24
第１５図８	２号住居跡、埋土	土師器坏	ヨコナデ、軽いケズリ、橙 7.5 YR 7 / 6	ミガキ、橙５YR 6 / 6	口径 16 cm、器高 3.9 cm
第１５図９	２号住居跡、埋土	竈支脚	ナデツケ、マメツ、明褐 7.5 YR 5 / 6	橙５YR 6 / 6	残存高 10.8 cm、最大径 3.9 cm、中実

出土遺物観察表（７）

図版番号	出土位置、層位	種　別	外面の特徴	内面の特徴	備　考
第 25 図１	弥陀内遺跡、Ｔ１，３層	中世陶器甕か壺	叩き目	ミガキ	渥美産、写真 20 の１
第 25 図２	地点②大畑遺跡Ｔ１、２層	高台付坏	ロクロナデ、底面は回転糸切り	黒色処理、ヘラミガキ	底径 7.7 cm、残存高 2.8 cm
第 25 図３	地点③大畑遺跡、Ｔ１、１層	土師器甕	荒いナデ	ナデ	底径 6.5 cm、残存高 2.2 cm
第 25 図４	地点③、７２番大畑遺跡、表土	中世陶器甕か壺、	ナデ	ナデ	在地産、写真 20 の２
第 25 図５	７７番大畑遺跡、Ｔ１、１層	近世陶器、摺り鉢	一部に鉄釉	摺り目	岸窯？写真 20 の３
第 25 図６	下館遺跡、１号竪穴住居跡埋土、	土師器坏	ロクロナデ	黒色処理、ヘラミガキ	口径 12.1 cm、残存高 3.8 cm
第 25 図７	下館遺跡、１号竪穴住居跡埋土、	土師器坏	ロクロナデ、底面は回転糸切り	黒色処理、ヘラミガキ	底径 6.6 cm、残存高 2 cm
第 25 図８	下館遺跡、１号竪穴住居跡埋土、	土師器坏	ロクロナデ	黒色処理、ヘラミガキ	口径 12 cm、残存高 4 cm
第 25 図９	下館遺跡、表採	土師器甕	ロクロナデ	横ナデ	
第 25 図 10	下館遺跡、土坑１埋土	須恵器甕	叩き目→ロクロナデ	叩き目→ロクロナデ	推定口径 19.8 cm、残存高 8.3 cm

出土遺物観察表（８）

図版番号	出土位置、層位	種　別	特　徴	備　考
第 26 図１	田中遺跡、Ｔ１、１層	銅貨	文久通宝、１１波、直径 2.7 cm、孔径 0.7 ｃｍ、重量 3.5 ｇ	
第 26 図２	下館遺跡、Ｔ１、２層	土鈴	残存長 3.3 cm、残存幅 4.2 cm、重量９ｇ	

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさほうこくしょさん
書名	市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ
副書名	
巻次	
シリーズ名	白石市文化財調査報告書
シリーズ番号	第３１集
編著者名	日下和寿、佐藤敏幸
編集機関	白石市教育委員会
所在地	〒989-0206　宮城県白石市字寺屋敷前 25 番地 6　TEL：0224（22）1343
発行年月日	西暦 2008 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおはたいせき 大畑遺跡	白石市字東大畑・字不澄ヶ池・字堂場前	04206	02262	38°00′23″	140°37′48″	20060308～20070329	115.00	個人住宅建設
		04206	02262	38°00′33″	140°37′41″	20070604～20070605	170.00	住宅地造成
		04206	02262	38°00′38″	140°37′45″	20071112・20080209	31.00	共同住宅建設
		04206	02262	38°00′30″	140°37′42″	20071220～20071221	9.70	宅地造成
		04206	02262	38°00′33″	140°37′34″	20080131	18.86	個人住宅建設
みだうちいせき 弥陀内遺跡	白石市字十王堂前	04206	02263	38°00′42″	140°37′44″	20070424	35.00	居宅建築工事
しもだていせき 下館遺跡	白石市福岡深谷字下館	04206	02307	38°01′49″	140°37′02″	20070518	56.30	個人住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大畑遺跡	散布地・官衙	弥生・奈良・平安・中世・近世・近代	掘建柱建物跡 2、竪穴住居跡 4、土坑 18、溝跡 3、ピット 4、遺物包含層 2	土師器、須恵器、石器（礫石器、砥石、紡錘車）、切石、鉄器、鉄滓、中世陶器、（古瀬戸、毘沙門・赤川、東北、白磁、青磁、三筋壷、中国産白磁？）、近世陶磁器（大堀相馬、肥前）、寛永通宝、近代陶磁器（洋食器）、弥生土器	関東系土師器、12 世紀代陶磁器が出土した。土師器は 7 世紀～ 8 世紀
弥陀内遺跡	散布地	奈良・平安・中世	ピット 3 基、土坑 1 基	中世陶器（渥美、瀬戸美濃）、土師器	12 世紀代の陶器が出土した。
下館遺跡	散布地、城館跡、製鉄	奈良、平安	竪穴住居跡 1 基、土坑 2 基、ピット 7 基	土師器、須恵器、土鈴	土鈴が出土した。

要約	

写　真　図　版

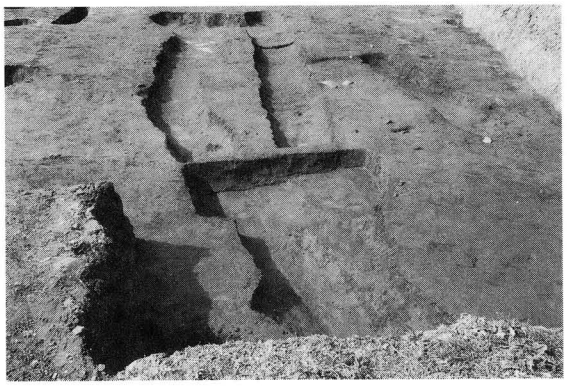


写真1　大畑遺跡 地点① SD01.02（東から）

写真2　大畑遺跡 地点① SD03（南から）

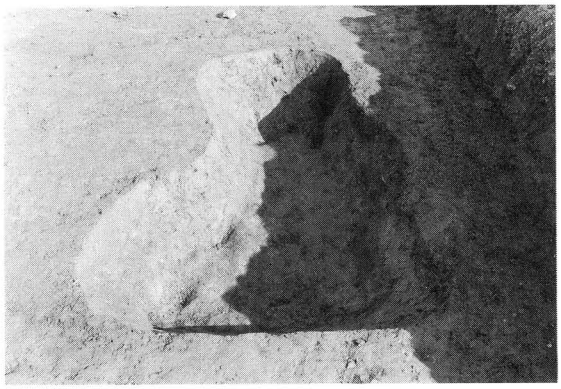


写真3　大畑遺跡 地点① SK06 完掘状況（西から）

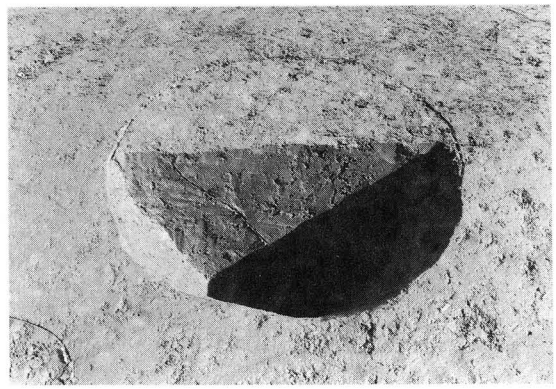


写真4　大畑遺跡 地点① SK01 断面（西から）

写真5　大畑遺跡 地点① SK13 断面（南から）

写真6　大畑遺跡 地点① SK14 断面（北から）

写真7　大畑遺跡 地点① 1号竪穴住居跡（南から）

写真8　弥陀内遺跡 T2 全景（南から）

写真9　下館遺跡 T2 東壁

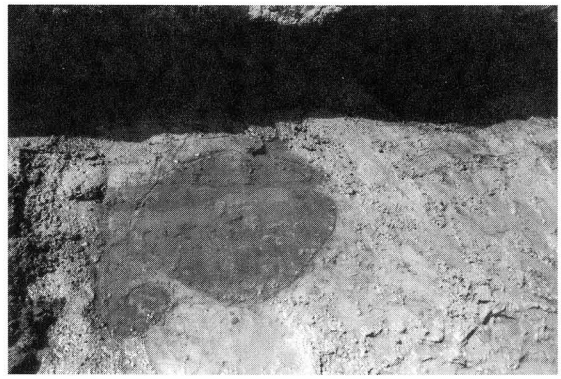


写真10　下館遺跡 T2 土坑2（南から）

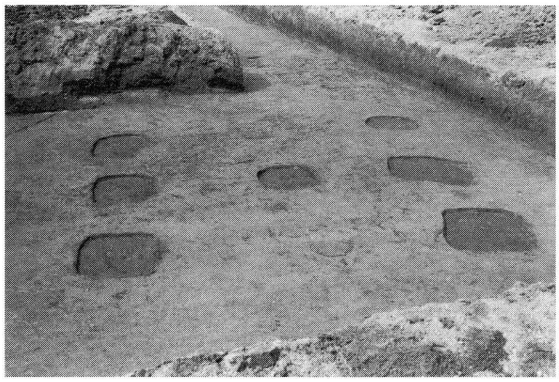


写真11　大畑遺跡 地点② 堀立柱建物跡（南から）

写真12　大畑遺跡 地点② 1号竪穴住居跡

写真13 大畑遺跡 地点③ トレンチ全景（東から）

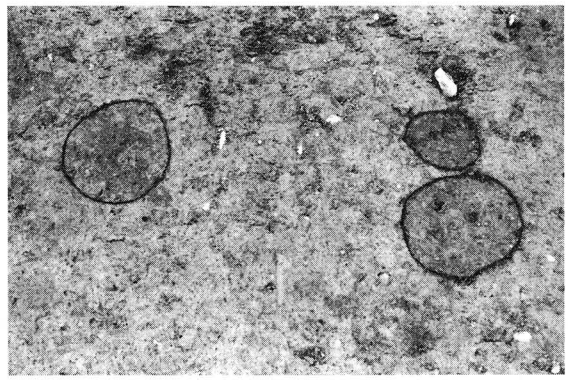


写真14 大畑遺跡 地点③ ピット検出状況

写真15 大畑遺跡 地点⑥ ピット2

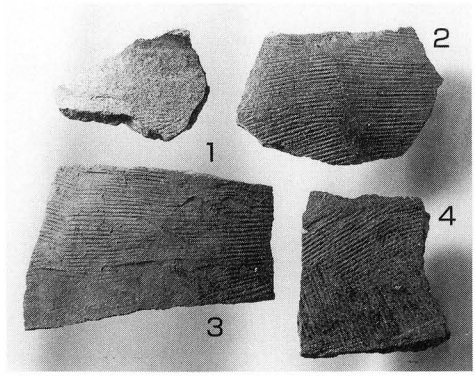


写真16 大畑遺跡 出土遺物（1）

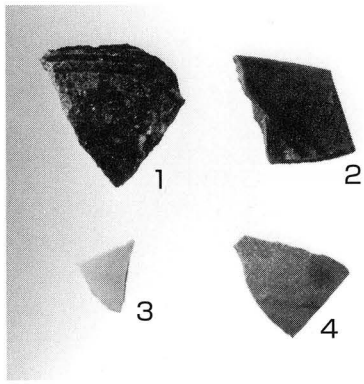


写真17 大畑遺跡 出土遺物（2）

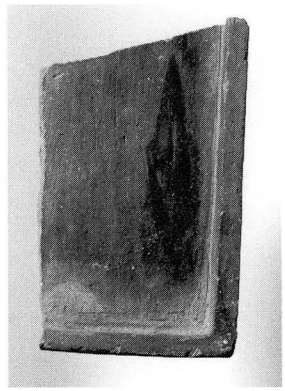


写真18 大畑遺跡 出土遺物（3）

写真19 大畑遺跡 出土遺物（4）

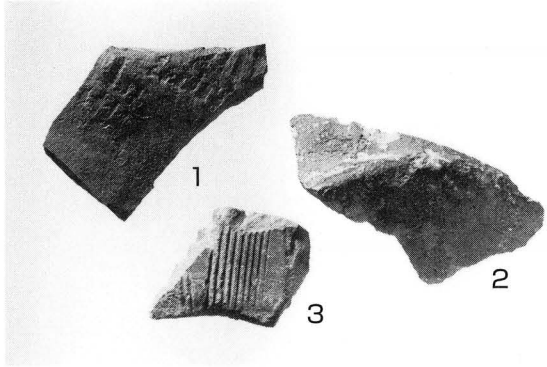


写真20 出土した陶器類

写真21 大畑遺跡 出土遺物（5）

写真22 大畑遺跡 出土遺物（6）

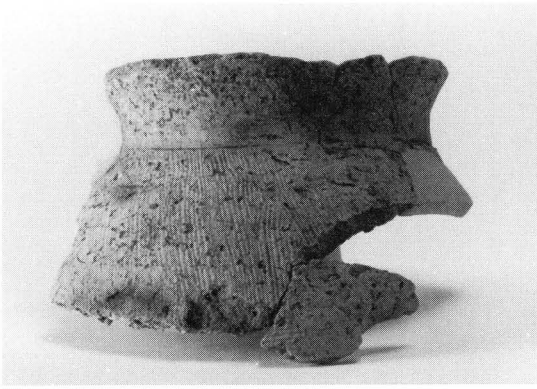


写真23 大畑遺跡 出土遺物（7）

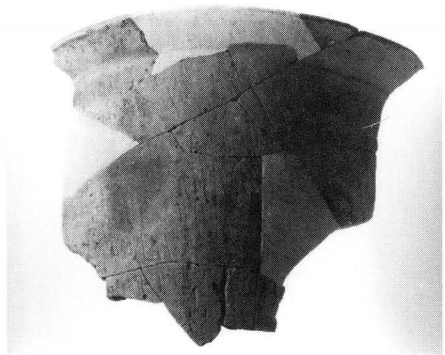


写真24 大畑遺跡 出土遺物（8）

白石市文化財調査報告書　第３１集

市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ

平成２０年３月２８日印刷
平成２０年３月３１日発行

編集・発行　白石市教育委員会
〒989-0206　白石市字寺屋敷前25番地6
電話：0224(22)1343
印　刷　(株) 不忘印刷所
〒989-0273　白石市字中町 25
電話：0224(26)2070